千葉市古山遺跡（第３次）

－宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書－

2018

株 式 会 社　　拓 匠 開 発
公益財団法人 千葉市教育振興財団

千葉市古山遺跡（第３次）

－宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書－

2018

株 式 会 社　　拓 匠 開 発
公益財団法人 千葉市教育振興財団

例言

1　本書は、千葉市若葉区桜木 2-72-3 に所在する古山遺跡の宅地造成に伴う発掘調査報告書である。

2　発掘調査および整理作業は、株式会社拓匠開発の委託を受け、千葉市教育委員会生涯学習部文化財課の指導のもと公益財団法人千葉市教育振興財団が実施したものである。

3　発掘調査の期間・面積・担当者は下記のとおりである。

・確認調査

期間：2017（平成 29）年５月 17 日～2017（平成 29）年５月 19 日　面積：50 ㎡/661.05 ㎡　担当者：長原亘

・本調査

期間：2017（平成 29）年７月 27 日～2017（平成 29）年８月 17 日　面積：261.6 ㎡　担当者：小林嵩

4　整理および本書の製作・編集は、吉村瑶子・新田浩美・田中葉月・北田典子の協力を得て、小林が担当して行った。

5　整理期間は、2017（平成 29）年８月 17 日～2018（平成 30）年３月 16 日にかけて、断続的に行った。

6　遺構・遺物の撮影は小林・塚原勇人が行った。

7　本書の執筆は小林が行った。

8　出土資料・調査記録等は千葉市埋蔵文化財調査センターで保管・管理している。

9　発掘調査から報告書刊行まで、下記の諸機関の御指導・御協力を賜った。

千葉市教育委員会生涯学習部文化財課・株式会社拓匠開発

凡例

1　本書に掲載した遺構図等の方位は、公共座標の北を基準としている。

2　土層及び遺物の色を記号で示してある場合は、農林水産省監修「新版　標準土色帖」による。

3　本文中の挿図の縮尺は原則として以下のとおりである。

遺構実測図：1/40・1/60

遺物実測図：土器 1/4・1/3　鉄製品 1/3　土製品・石製品 1/2

4　遺構・遺物の図面は Adobe Systems 社製 Adobe Illustrator で編集作業を行った。

5　遺構・遺物写真はデジタルカメラで撮影し、Adobe Systems 社製 Adobe Photoshop で編集作業を行った。

6　出土した鉄製品の保存処理は株式会社イビソクに委託して行った。

7　本文中の遺構の略称は以下のとおりである。

竪穴住居跡：SI　土坑：SK　性格不明遺構：SX

目次

例言・凡例
目次
第１章　古山遺跡の概要 …… 1
　1　遺跡の立地と周辺の遺跡 …… 1
　2　過去の調査歴 …… 1
　3　調査の方法 …… 1
第２章　検出した遺構と遺物 …… 4
　1　縄文時代 …… 4
　2　古墳時代 …… 7
　3　中・近世 …… 14
第３章　まとめ …… 14
写真図版
抄録

表目次

第１表　出土遺物集計表 …… 15　第２表　古山遺跡出土遺物観察表 …… 16

挿図目次

第１図　古山遺跡の位置と周辺遺跡 ･････････････････ ２
第２図　古山遺跡位置図 ･････････････････････････ ２
第３図　今年度の調査範囲と過去の調査範囲･････････････ ３
第４図　古山遺跡遺構配置図･････････････････････････ ４
第５図　第１・２号土坑･････････････････････････････ ５
第６図　縄文時代遺構外出土遺物（１）･････････････････ ５
第７図　縄文時代遺構外出土遺物（２）･････････････････ ６
第８図　第１号竪穴住居跡（１）･････････････････････ ８
第９図　第２号竪穴住居跡（１）･････････････････････ ９
第 10 図　第２号竪穴住居跡（２）･････････････････････ 10
第 11 図　第１号竪穴住居跡（２）･････････････････････ 11
第 12 図　第２号竪穴住居跡（３）･････････････････････ 11
第 13 図　第２号竪穴住居跡（４）･････････････････････ 12
第 14 図　第３号竪穴住居跡･････････････････････････ 12
第 15 図　第１号性格不明遺構･･････････････････････ 13

写真図版目次

図版１　調査前現況（東から）、第１号竪穴住居跡遺物出土状況（北から）、第１号竪穴住居跡遺物出土状況（北東から）、第１号竪穴住居跡全景（北から）、第１号竪穴住居跡掘方全景（北から）、第２号竪穴住居跡土層断面（西から）、第２号竪穴住居跡遺物出土状況（東から）、第２号竪穴住居跡炉跡全景（北東から）

図版２　第２号竪穴住居跡全景（西から）、第２号竪穴住居跡掘方全景（西から）、第３号竪穴住居跡全景（東から）、第１号性格不明遺構遺物出土状況（南から）、第１号性格不明遺構土層断面（南から）、第１号土坑全景（西から）、第２号土坑全景（南から）、調査終了状況（東から）

図版３　第１・２号土坑出土遺物、縄文時代遺構外出土遺物（１）

図版４　縄文時代遺構外出土遺物（２）、縄文時代遺構外出土石鏃・石鏃未成品

図版５　第１号竪穴住居跡出土遺物、第２号竪穴住居跡出土遺物（１）

図版６　第２号竪穴住居跡出土遺物（２）、第１号性格不明遺構出土遺物、第１号竪穴住居跡出土磨石類

第１章　古山遺跡の概要

1　遺跡の立地と周辺の遺跡（第１・２図）

古山遺跡は千葉市を流れる都川の支流、坂月川に面する標高約 23 ～ 24m の台地上に位置している。古山遺跡の周辺には多くの遺跡が存在し、旧石器時代～近世まで多くの遺跡が確認されている。旧石器時代の遺跡としては城之腰遺跡でナイフ形石器やポイント類が出土している。縄文時代の遺跡は多く、本遺跡から小支谷を挟み加曽利貝塚が位置している。また、向ノ台遺跡で早期の炉穴群、城之腰遺跡で中期前葉～中葉の集落、後期の貝塚である花輪貝塚・滑橋貝塚、高崎台遺跡などが確認されている。弥生時代の遺跡も本遺跡周辺には多い。矢作貝塚では中期中葉の資料が確認されるほか、城之腰遺跡・猪鼻城跡・星久喜遺跡・辺田遺跡で中期後葉の比較的大規模な集落や墓域が検出され、本遺跡に近い田向南遺跡では後期の集落が検出されている。弥生時代終末～古墳時代にかけては小規模な集落が点在する。姫宮遺跡では、弥生時代終末期の資料が出土し、猪鼻城跡では前方後円墳１基を含めた古墳群が検出されている。古代の遺跡は千葉寺町付近に密集し、鷲谷津遺跡や観音塚遺跡、大北遺跡で確認される。本遺跡に近接する遺跡としては京願台遺跡が挙げられる。中世の遺跡としては、都町・山王遺跡や向ノ台遺跡があり、堀跡や台地整形区画、地下式坑が検出されている。

2　過去の調査歴（第３図）

古山遺跡の調査は今回の調査が３回目である。昭和 63 年度調査では、縄文時代前期後葉の竪穴住居跡３軒、中期前葉の竪穴住居跡１軒、早期の集石１基、縄文時代の土坑 22 基、古墳時代前期末葉～中期の竪穴住居跡 24 軒、土坑２基が検出されている。集落は各時代を通して、台地の縁辺部に密集する傾向があり、台地縁辺部からやや離れた平成 22 年度調査では、古墳時代前期末葉の竪穴住居跡が１軒検出されたのみである。縄文時代の遺物は、遺構が確認された時期以外にも、早期前葉～晩期前葉までの資料が調査区内から出土している。

なお、今年度調査を第３次調査と呼称し、昭和 63 年度調査を第１次調査、平成 22 年度調査を第２次調査と呼称する。

3　調査の方法

調査区内に基準杭を設定し、遺構平面図作成と遺物の取り上げは、この杭を基準として行った。また、遺構番号は過去の調査からの通し番号とはしなかった。

参考文献

加藤大揮ほか 2011『千葉市中央区　猪鼻城跡　千葉大学医薬系総合研究棟建設に伴う発掘調査報告書』千葉大学亥鼻地区埋蔵文化財調査委員会・千葉大学文学部考古学研究室

倉田義広ほか 1988『立木南遺跡』千葉市教育委員会・財団法人千葉市文化財調査協会

小林嵩 2017『千葉市田向遺跡－宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書－』市原久男・公益財団法人千葉市教育振興財団

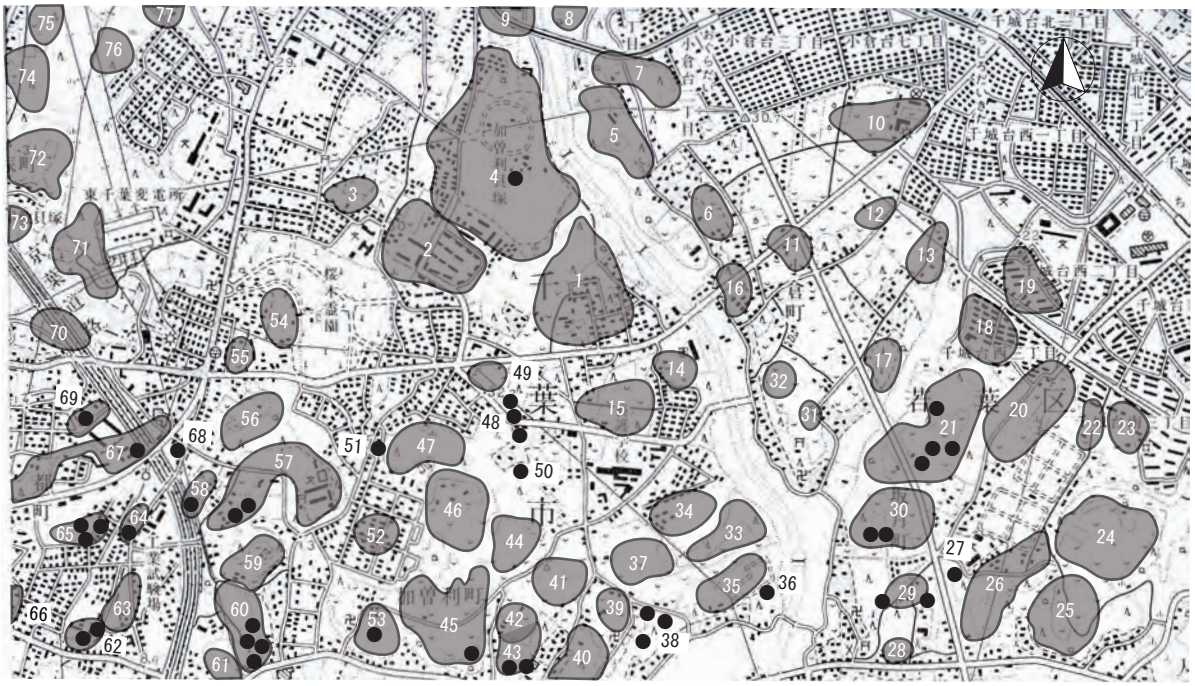
田中英世 2006『千葉市花輪貝塚－平成 15 年度確認調査報告－』千葉市教育委員会・財団法人千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センター

田中英世・菊池健一 1990『千葉市古山遺跡』宗教法人阿彌陀寺・財団法人千葉市文化財調査協会

塚原勇人・小林嵩 2016『千葉市向ノ台遺跡Ⅱ－宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書－』有限会社新井トラスト

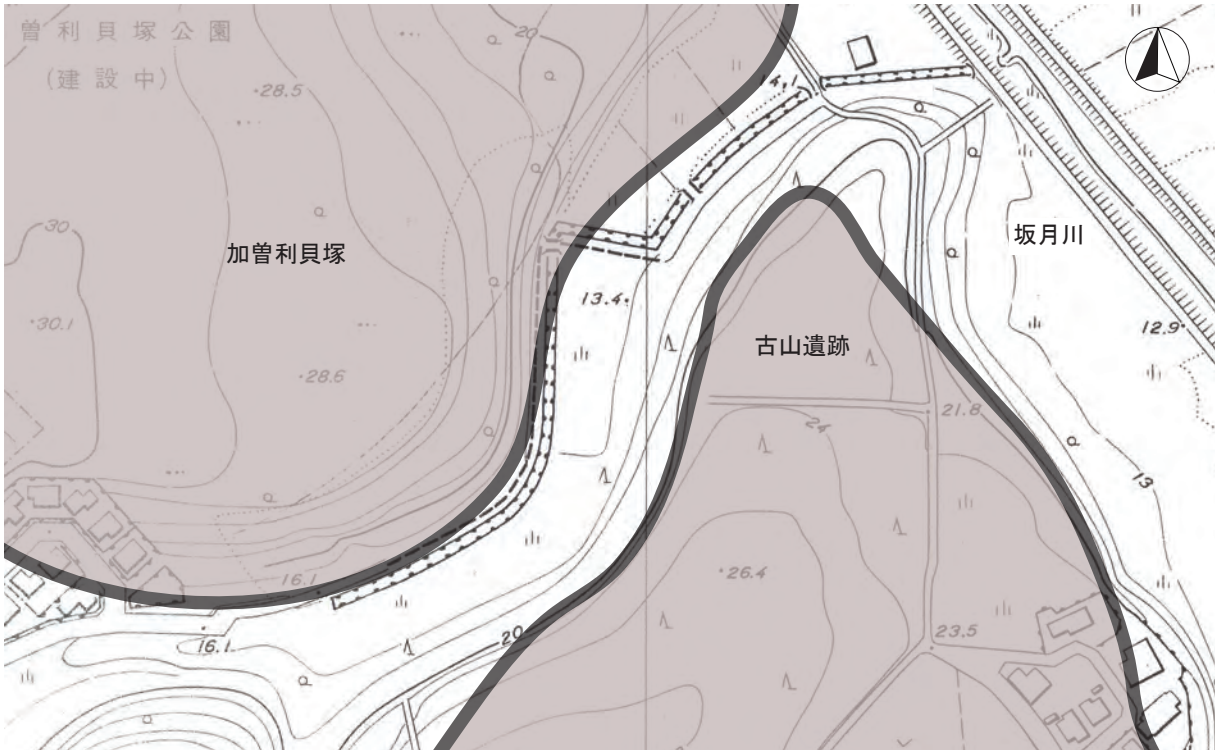
西野雅人ほか 2017『史跡　加曽利貝塚　総括報告書』千葉市教育委員会

古谷渉 2010『千葉市古山遺跡』有限会社開成・財団法人千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センター

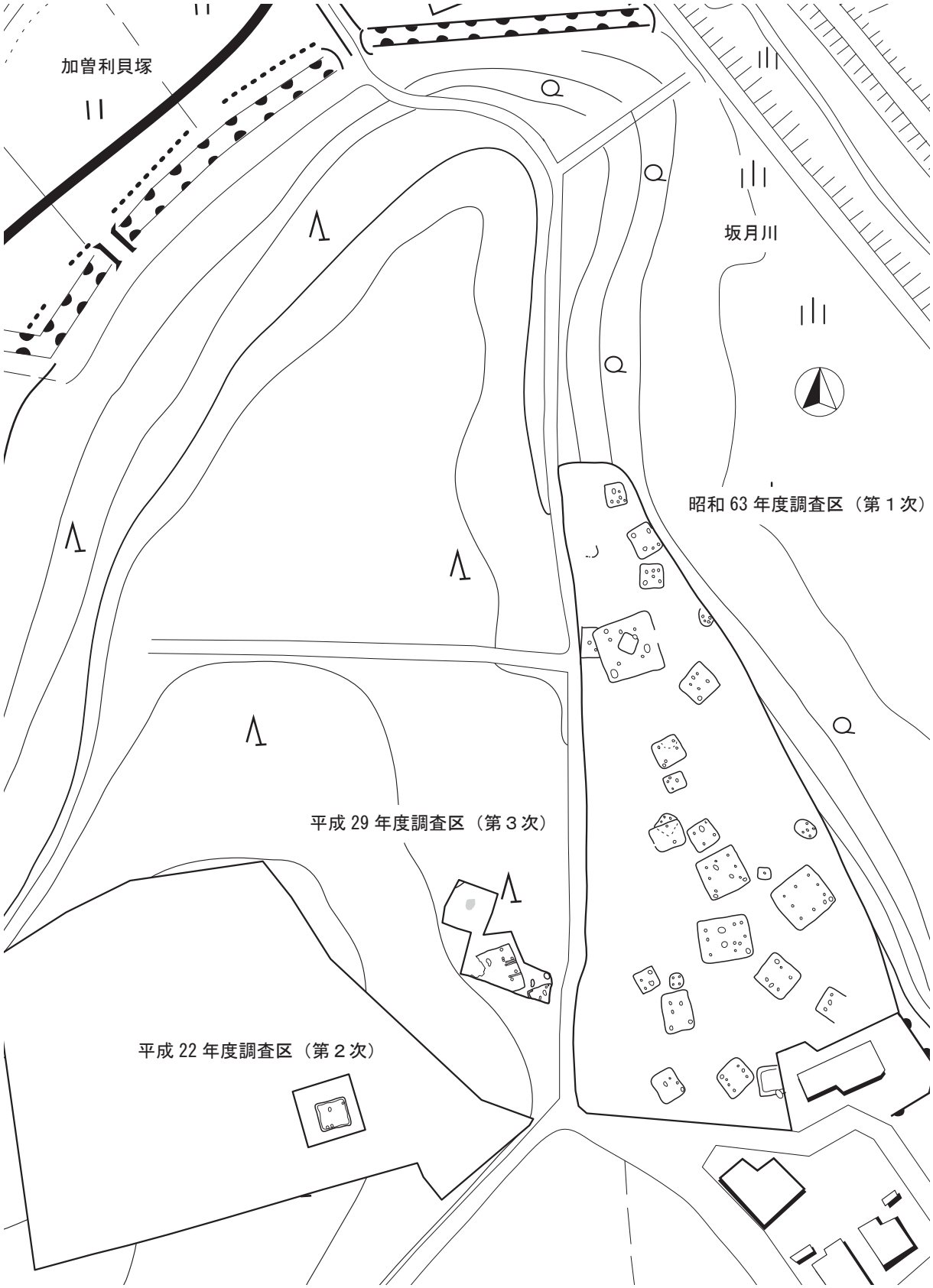


1. 古山遺跡　2. 加曽利貝塚隣接地遺跡　3. 南大作遺跡　4. 加曽利貝塚　5. 玄藤遺跡　6. 八津田遺跡　7. 柳沢遺跡　8. 滑橋貝塚　9. 京願台遺跡
10. 中薙遺跡　11. 道ノ堀遺跡　12. 南閑堀遺跡　13. 山ノ越第1遺跡　14. 若郷遺跡　15. 若郷南遺跡　16. 木戸作遺跡　17. 小倉山王遺跡
18. さら坊遺跡　19. 蕨立遺跡　20. 味噌草野遺跡　21. 台さら坊遺跡　22. 味噌草遺跡　23. 味噌草東遺跡　24. 迎田遺跡　25. 海老作遺跡
26. 夕賀遺跡　27. 坂月古墳　28. 新田山遺跡　29. 家ノ上遺跡　30. 松山台遺跡　31. 山ノ越南遺跡　32. 山ノ越第2遺跡　33. 永作遺跡
34. 永作北遺跡　35. 永作南遺跡　36. 永作古墳　37. 永作西遺跡　38. 辺田前古墳群　39. 台畑東遺跡　40. 作遺跡　41. 台畑遺跡　42. 台畑南遺跡
43. 台畑古墳群　44. 大泉谷遺跡　45. 姫宮遺跡　46. 高畑遺跡　47. 花輪貝塚　48. 若郷古墳群　49. 上人塚遺跡　50. 大泉谷古墳群　51. 兼坂古墳
52. 花輪遺跡　53. 新山遺跡　54. 大作遺跡　55. 上人塚遺跡　56. 立木遺跡　57. 立木南遺跡　58. 聖人塚遺跡　59. 田向遺跡　60. 田向南遺跡
61. 和田前遺跡　62. 御所ヶ原郭遺跡　63. 和田前西遺跡　64. 蛤谷津上遺跡　65. 松原遺跡　66. 辺田遺跡　67. 都町・山王遺跡　68. 聖人塚古墳
69. 天神台遺跡　70. 車坂遺跡　71. 殿山遺跡　72. 荒屋敷北貝塚　73. 荒屋敷貝塚　74. 貝殻後遺跡　75. 谷ツ上遺跡　76. 谷津上遺跡　77. 須摩堀遺跡

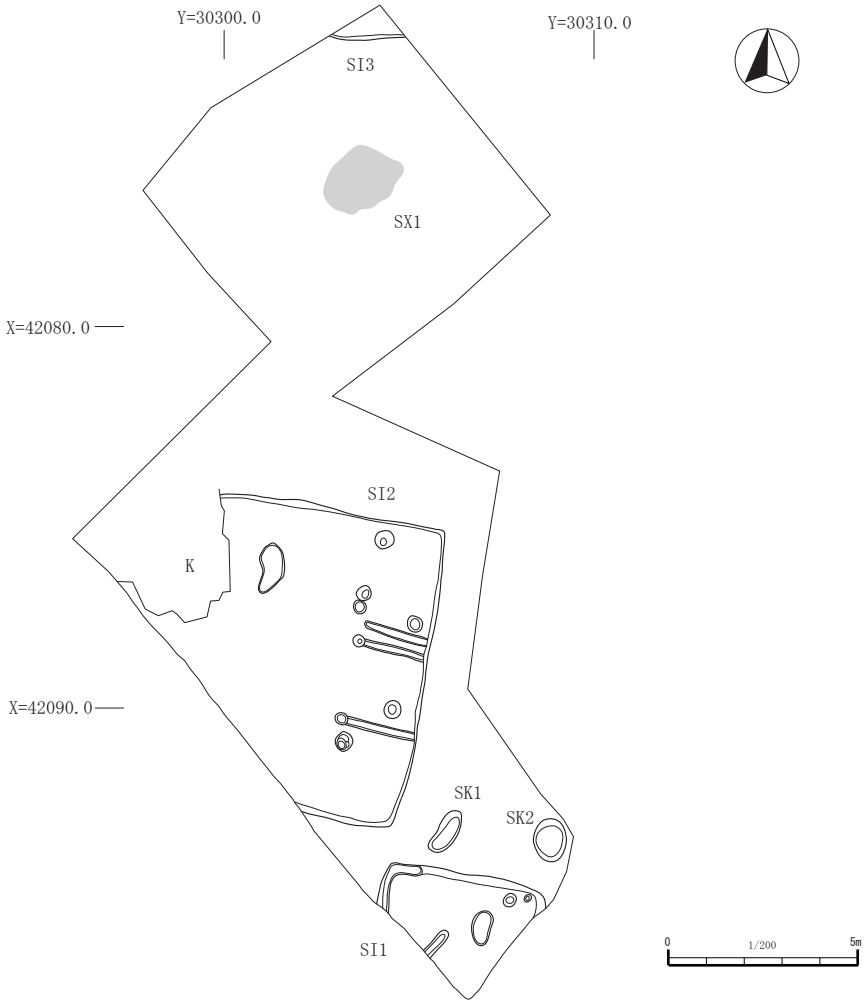
第１図　古山遺跡の位置と周辺遺跡（S＝1/25000）



第２図　古山遺跡位置図（S＝1/2500）



第３図　今年度の調査範囲と過去の調査範囲（S=1/1000）



第４図　古山遺跡遺構配置図（S=1/200）

第２章　検出した遺構と遺物

1　縄文時代（第１・２表・第５～７図）

（１）概要

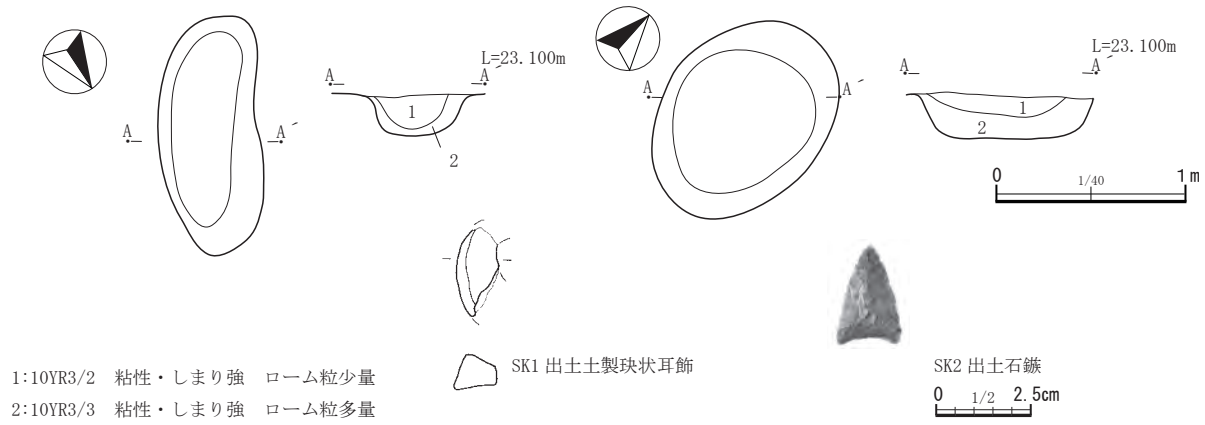
縄文時代の遺構としては、土坑２基を検出した。また調査区内及び古墳時代の竪穴住居跡覆土から土器・石器類が出土している。遺物の総数は集計表（第１表）に記載した。

（２）土坑

第１号土坑（第１・２表、第５図）

重複関係：なし。平面形態：不正円形。規模：長軸 1.26m、短軸 0.53m、深さ 0.22m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：縄文土器の細片と土製玦状耳飾が出土している。時期：形態及び出土遺物から縄文時代の可能性がある。

第２号土坑（第１・２表、第５図）

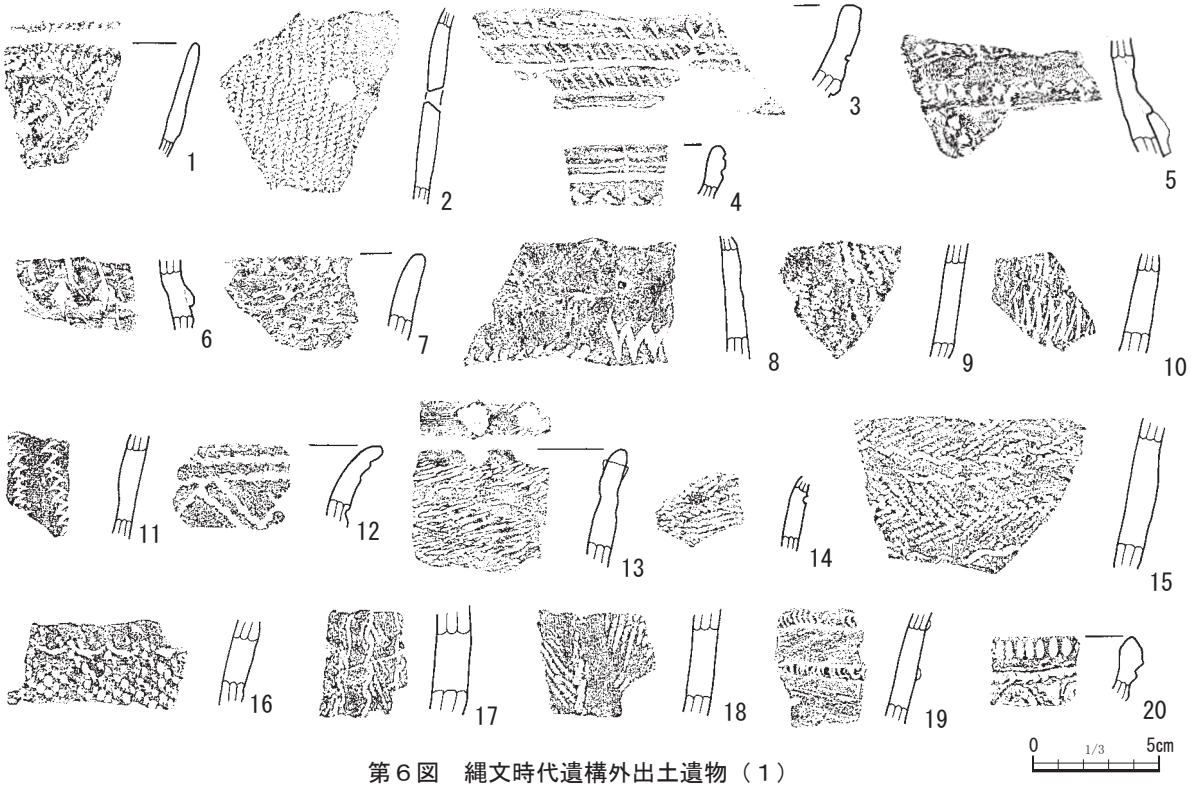


第５図　第１・２号土坑

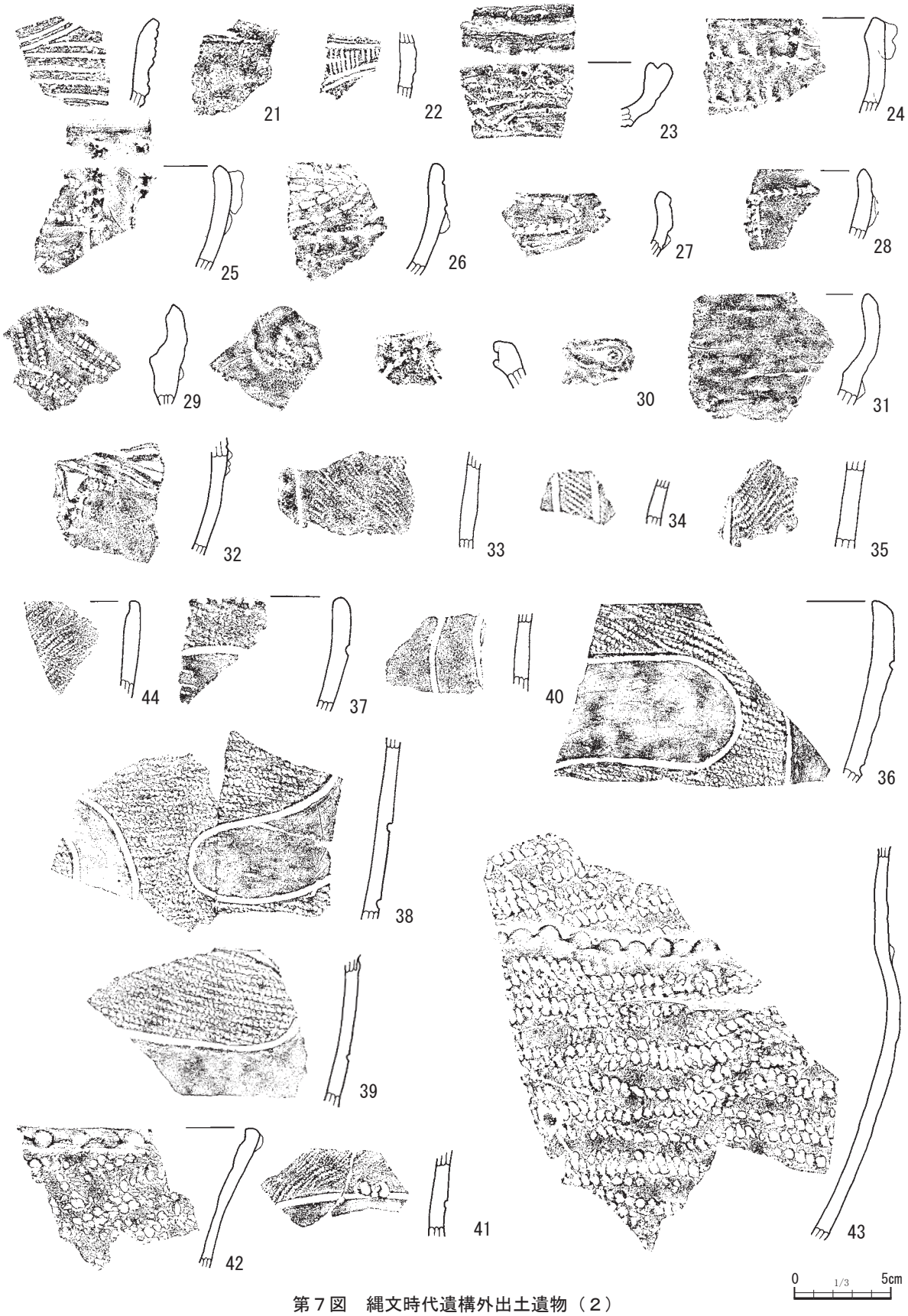
重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸 1.10m、短軸 0.89m、深さ 0.25m。構造：底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土:自然堆積と考えられる。遺物:縄文土器・土師器が出土している。細片で占められ、縄文土器は前期後葉～中期前葉の時期幅がある。また、チャート製の石鏃が１点出土している。時期：形態及び出土遺物から縄文時代の可能性がある。

（３）遺構外出土遺物（第１・２表、第６・７図）

今回の調査で検出した縄文時代の遺構は土坑２基だが、各遺構の覆土及び調査区内から縄文時代の土器・石器類が比較的多く検出されている。最も多く出土しているのは、中期前葉の阿玉台式であり、それ以外にも早期～後期までの時期幅がある。石器としては黒曜石製・頁岩製・安山岩製の石鏃及び石鏃未成品が出土している（写真図版４）。黒曜石の剥片・砕片類も 20 点出土し、土器の内容と併せて見ると、前期後葉～中期前葉の間に黒曜石製石鏃の製作が行われた可能性がある。



第６図　縄文時代遺構外出土遺物（１）



第７図　縄文時代遺構外出土遺物（２）

２　古墳時代（第１・２表・第８～15 図）

（１）概要

古墳時代前期末葉～古墳時代中期の竪穴住居跡が３軒、性格不明遺構を１基検出した。各竪穴住居跡の遺物の総数は集計表（第１表）に記載した。

（２）竪穴住居跡

第１号竪穴住居跡（第１・２表、第８・11 図）

重複関係：なし。一部調査区外。平面形態：方形と考えられる。規模：長軸 4.31m、短軸〈3.24m〉、深さ 0.61m。構造:床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。床面は貼床であり、部分的に硬化し、ピットが２基検出された。壁溝は全周せず、幅 0.26m、深さ 0.03m を測る。間仕切り溝が１条検出され、幅 0.26m、深さ 0.11m を測る。炉は住居の北壁寄りから検出され、長軸 0.94m、短軸 0.51m、深さ 0.07m を測る。住居跡覆土２層は非常に均質的であり、人為的な埋め戻しの可能性がある。１層は自然堆積層と考えられる。また、床面付近から炭化材及び焼土が検出されたことから、焼失住居と考えられる。遺物：床面及び覆土中から土師器が出土し、北壁寄りの床面付近及び炉周辺からまとまって出土している。また、床面から磨石類（写真図版６）が出土している。時期：出土遺物から古墳時代前期末葉、草刈３式（大村 2009）。

第２号竪穴住居跡（第１・２表、第９・10・12・13 図）

重複関係:なし。一部調査区外。平面形態:方形。規模:長軸 7.98m、短軸〈6.06〉m、深さ 0.60m。構造:床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる、床面は貼床であり、部分的に硬化していた。ピットが８基検出され、間仕切り溝が３条検出された。壁溝は確認されなかった。炉は北壁寄りから検出され、長軸 1.35m、短軸 0.66m、深さ 0.05m を測り、底面は被熱が著しかった。住居跡覆土２層は非常に均質的であり、人為的な埋め戻しの可能性がある。１層は自然堆積層と考えられる。柱穴の検出状況から本竪穴住居跡は建て替えが行われたと考えられ、Ｐ５・６が旧住居跡に伴うと考えられ、Ｐ１・２は新住居跡に伴うものと考えられる。調査段階で新住居跡の調査中に旧住居跡の柱穴が検出できなかったことを踏まえれば、新住居跡の建て替えの際に新たに貼床をしたと考えられる。遺物：床面及び覆土中から土師器・石製品・鉄製品が出土し、北東側の床面からまとまった遺物が白色の粘土塊と共に出土している。時期：出土遺物から古墳時代中期終末（小沢 2008）。

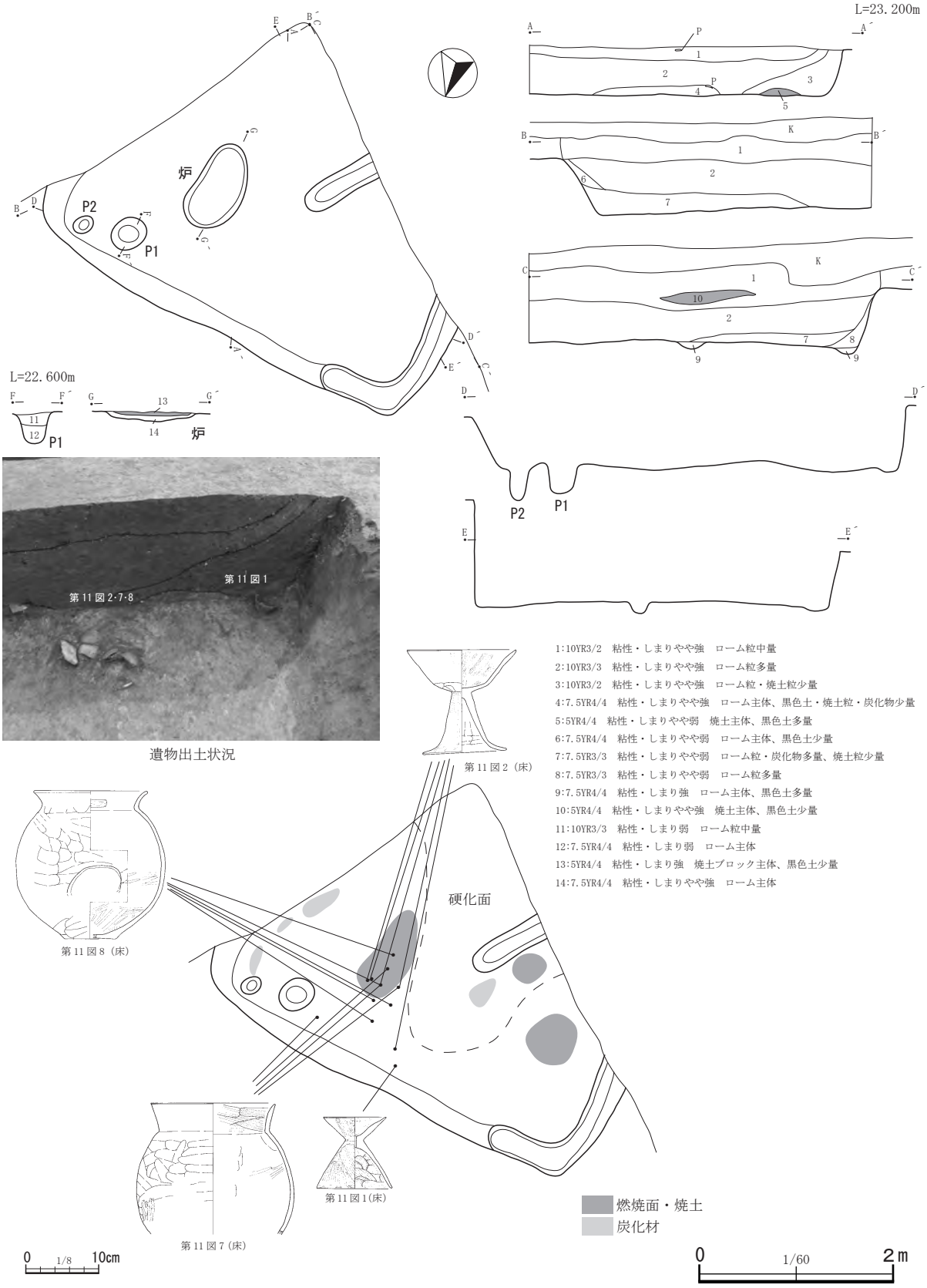
第３号竪穴住居跡（第１表、第 14 図）

重複関係：なし。一部調査区外。平面形態：方形と考えられる。規模：長軸〈1.82m〉、短軸〈0.91m〉、深さ 0.45m。構造：床面はほぼ平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。ごく部分的な調査に留まり、柱穴や壁溝は検出されていない。遺物：出土していない。時期：平面形態及び覆土から古墳時代中期。

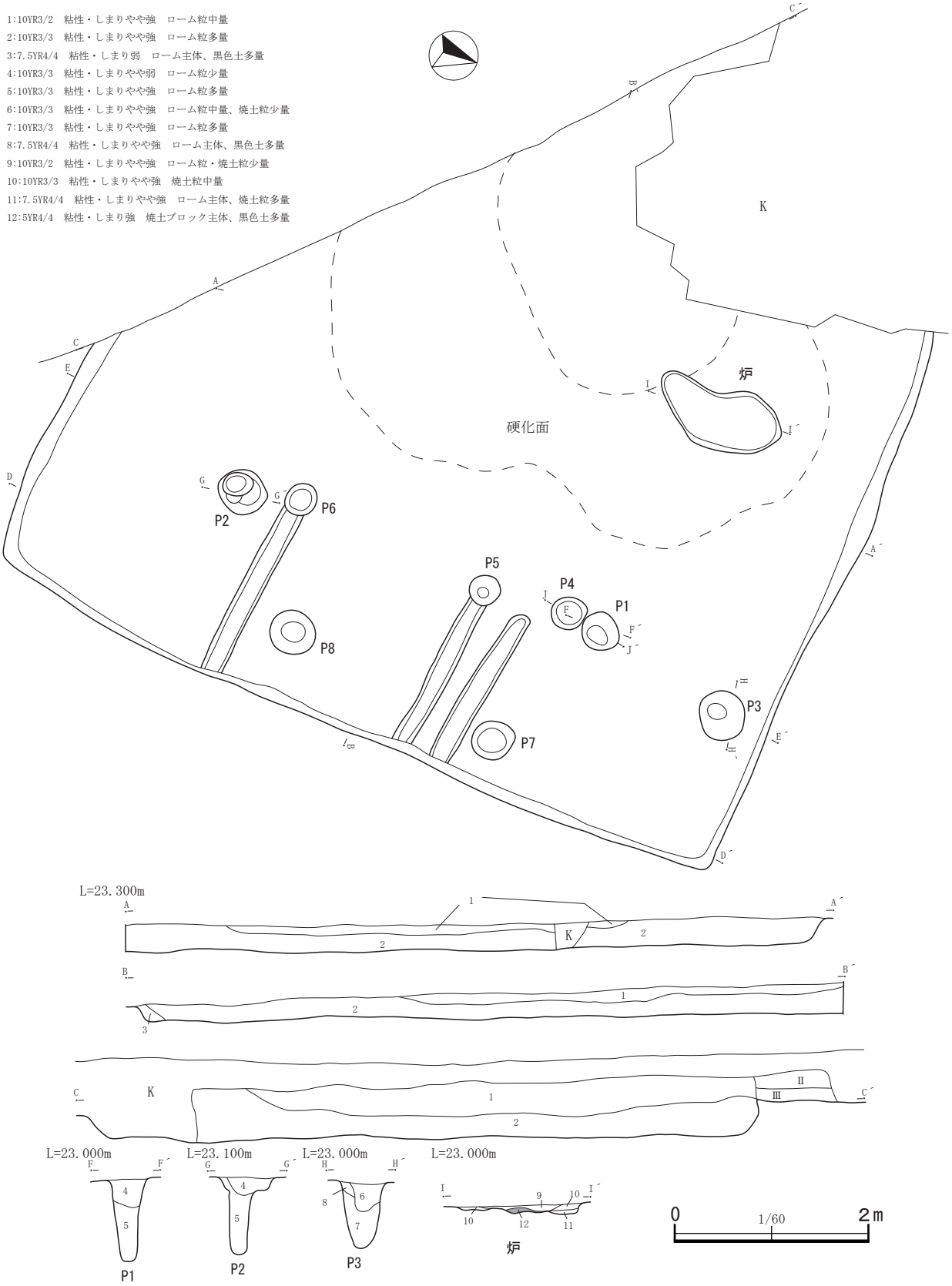
（３）性格不明遺構

第１号性格不明遺構（第１・２表、第 15 図）

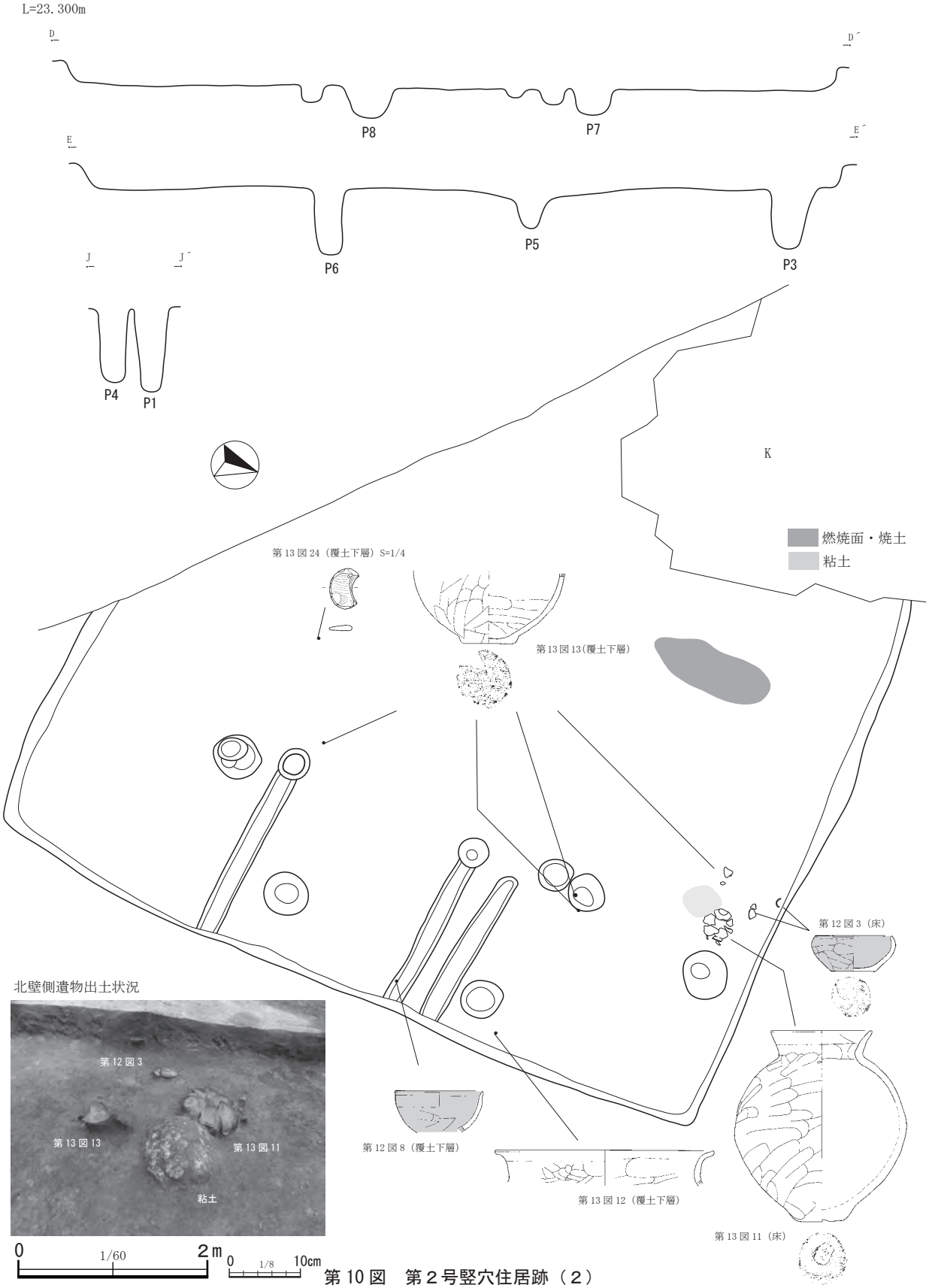
重複関係：なし。平面形態：硬化面は不正円形を呈する。規模：硬化面範囲は長軸 2.23m、短軸 1.71m を測る。構造：壁・炉・柱穴・壁溝などは確認されなかったが、黒色土中に硬化面が確認されたこと、



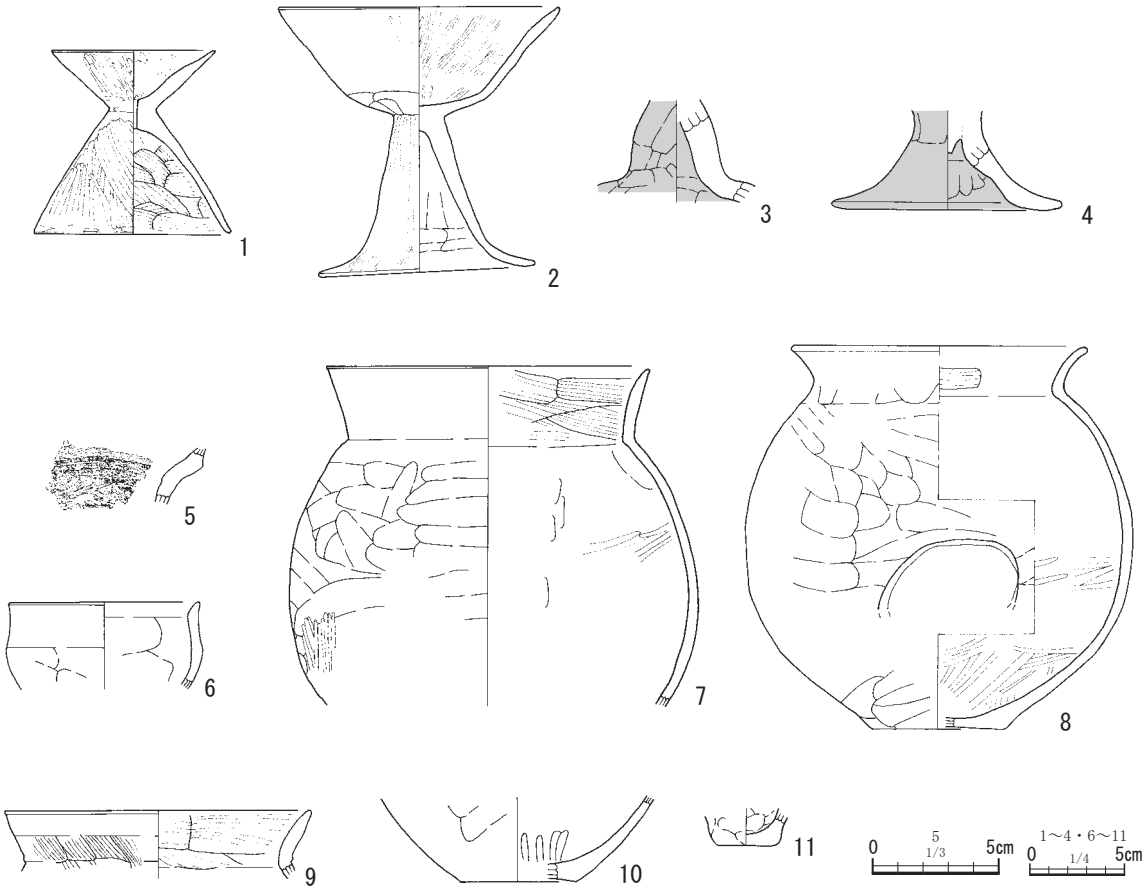
第８図　第１号竪穴住居跡（１）



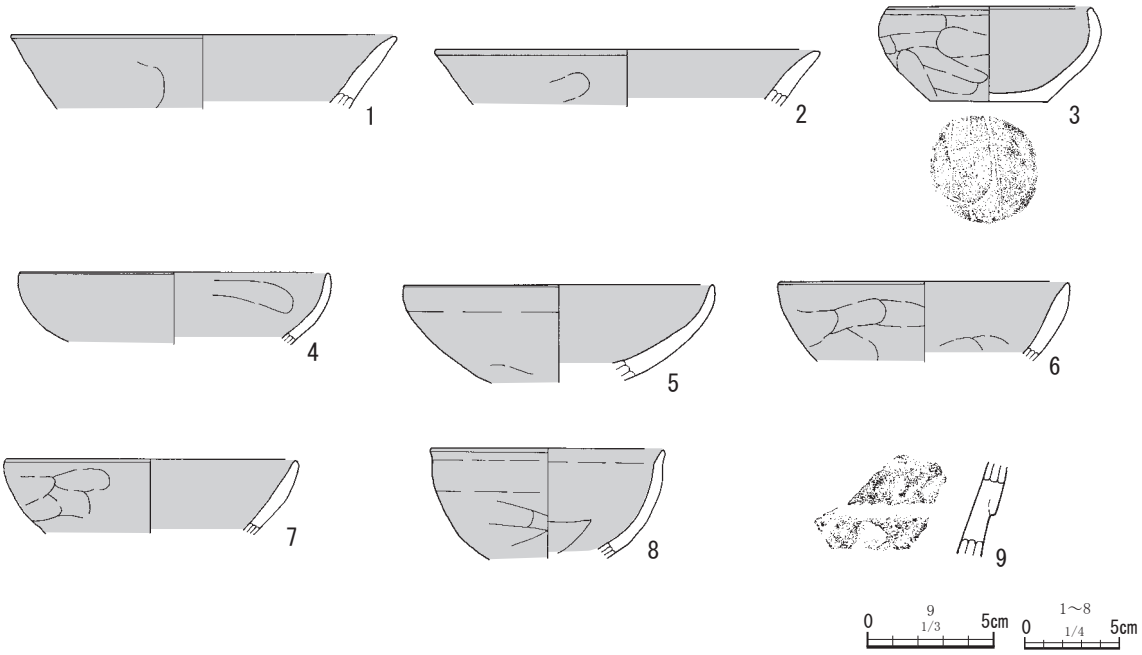
第９図　第２号竪穴住居跡（１）



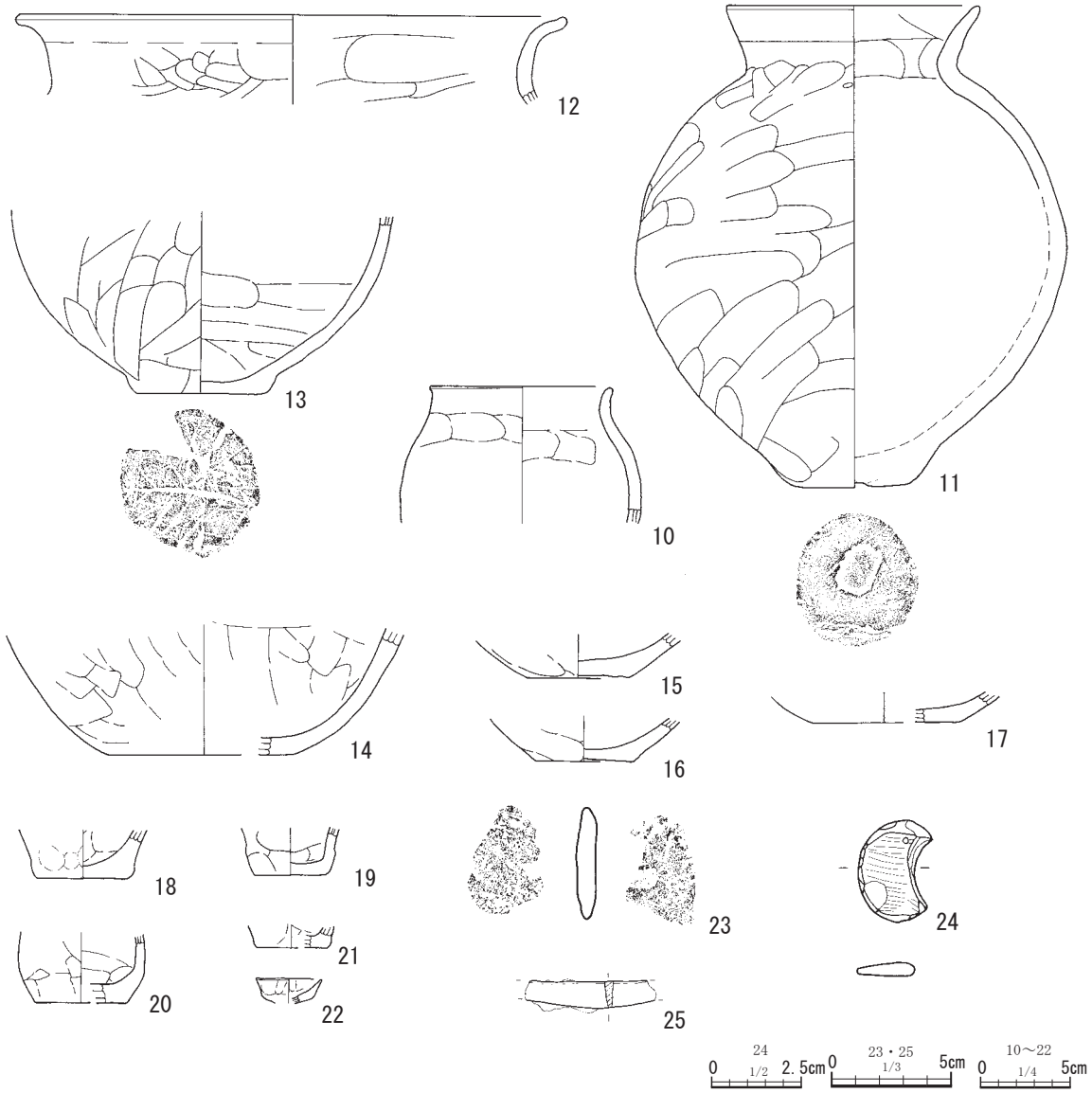
第10図　第２号竪穴住居跡（２）



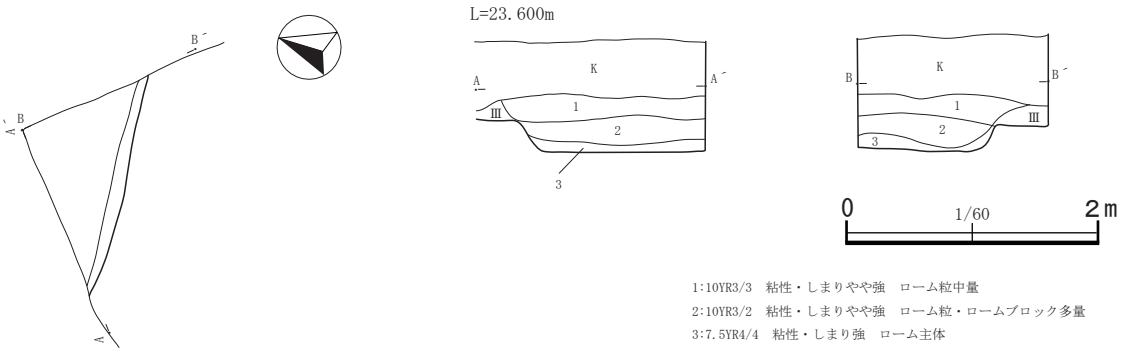
第11図　第１号竪穴住居跡（２）



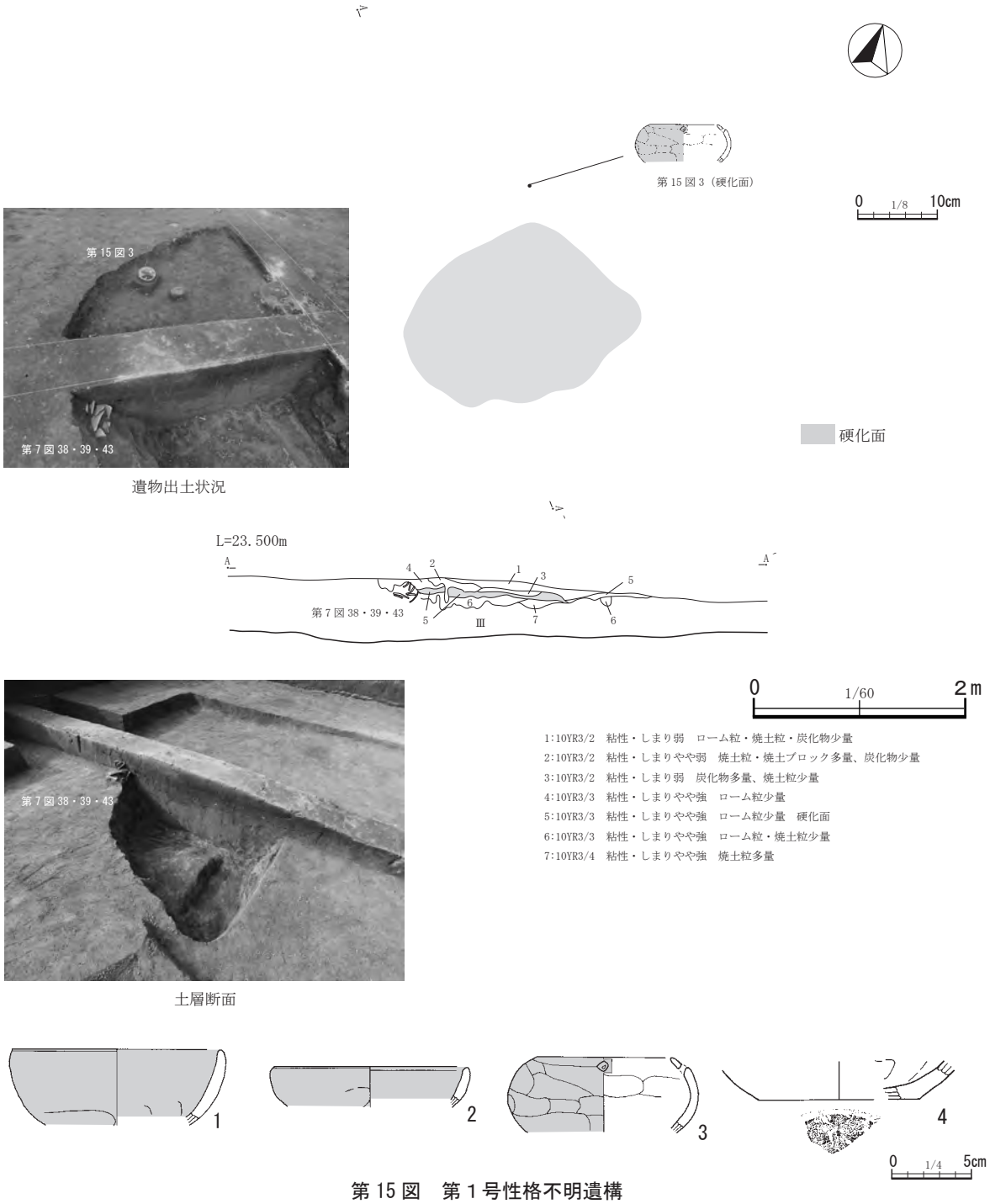
第12図　第２号竪穴住居跡（３）



第13図　第２号竪穴住居跡（４）



第 14 図　第３号竪穴住居跡



第15図　第1号性格不明遺構

まとまった遺物の出土があったこと、覆土中から焼土や炭化材が検出されたことから遺構として判断した。５層に硬化面が検出され、その下位にあたる６層から縄文時代後期の加曽利Ｂ式がまとまって出土している。また、当遺構と第１・２号竪穴住居跡出土の古墳時代遺物に、遺構間接合が認められる遺物もあることから、風倒木による窪地に縄文時代後期の加曽利Ｂ式が混入し、その後古墳時代に集落内における生活の場の一部として利用されたと考えられる。遺物：硬化面上から土師器・焼成粘

土塊が出土し、下位の６層から加曽利Ｂ式が出土している。時期：出土遺物から古墳時代中期。

３　中・近世

（１）概要

遺構は検出されなかったが、中・近世の遺物が１点出土している。

（２）遺構外出土遺物

第２号竪穴住居跡の覆土から陶磁器片が１点出土した。

第３章　まとめ

１　縄文時代

縄文時代の遺構としては土坑を２基検出し、それ以外に遺構外から多くの土器・石器類が出土した。時期幅は早期～後期までの幅があり、最もまとまっているのは中期前葉の阿玉台式期である。その他にも前期末葉～中期初頭の資料も多く確認された。当遺跡から小支谷を挟んで加曽利貝塚が位置し、中期中葉～後期中葉にかけて大規模な貝塚が形成されているが、過去の調査でも中期中葉～後期中葉の土器の出土は少ない（田中ほか 1990）。今年度の調査でも縄文時代遺物の出土状況は過去の調査の成果と概ね符合し、大規模貝塚と周辺の土地利用を考える上で貴重な成果を得ることができた。

２　古墳時代

古墳時代の竪穴住居跡を３軒検出した。第１号竪穴住居跡は、高坏や甕の形態などから古墳時代前期末葉の草刈３式期（大村 2009）と考えられる。古墳時代中期の竪穴住居跡は２軒であり、第２号竪穴住居跡は坏が組成に加わることや、坏の形態から小沢洋による編年案の４期（古墳時代中期終末期・TK216 ～ ON46 型式期・５世紀半ば）に位置づけられる。また、性格不明遺構を１基検出した。第１次調査でも当該期の集落が台地縁辺部で検出され、同一の集落と考えられる。第１次調査では一部弥生時代終末に遡る可能性がある竪穴住居跡が検出されているが、古山遺跡で集落が主に展開するのは古墳時代前期末葉の草刈３式期からと考えられ、現状の調査成果から考えると、古墳時代後期には継続せず、廃絶すると考えられる。この時期の集落は前段階から継続しない傾向が各地域の調査成果などから指摘されており（小沢 2008）、当遺跡でも同様の傾向が指摘された。

３　中・近世

遺物が１点検出されたのみであり、土地利用の痕跡は希薄である。

今回の調査は限られた範囲の調査ではあったが、当台地上の土地利用や周辺遺跡との関係を考える上で貴重な資料を得ることができた。

参考文献

大村直 2009「南中台遺跡と周辺遺跡の土器編年」『市原市南中台遺跡・荒久遺跡 A 地点』（『市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第 10 集・上総国分寺台遺跡調査報告ＸＸ』）市原市教育委員会埋蔵文化財調査センター

小沢洋 2008『房総古墳文化の研究』六一書房

田中英世・菊池健一 1990『千葉市古山遺跡』宗教法人阿彌陀寺・財団法人千葉市文化財調査協会

第１表　出土遺物集計表

遺構名				住居						性格不明		土坑				調査区		総計
				1		2		3		1		1		2				
残存				個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	
縄文	土器	諸磯式	深鉢		1		2				7				1		2	13
		浮島式～中期初頭：沈線・刺突文			3		5											8
		浮島式～中期初頭：貝殻文			6		8								1		1	16
		浮島式～中期初頭：縄文			5		20				1				1		4	31
		十三菩提式					1											1
		五領ヶ台式			1		5				2							8
		阿玉台Ⅰa式			1		2				1							4
		阿玉台Ⅰa～b式			2		1											3
		阿玉台Ⅳ式			1													1
		阿玉台式			21		55				1				2		6	85
		加曽利EⅡ式					1											1
		加曽利E式前半			1		1											2
		加曽利E式後半			2													2
		加曽利B2式					1				21							22
		加曽利B式					2											2
		縄文のみ			31		84				8		2				4	129
		沈線のみ			19		19				2				2		4	46
		無文			5		16				1						1	23
		不明			13		29				5		7		2		6	62
	土製品		玦状耳飾									1						1
	黒曜石		石鏃			1												1
			剥片	2		14				4								20
	チャート		石鏃	1										1				2
			石鏃未成品			1												1
			剥片	1														1
	安山岩		石鏃	1														1
古墳時代	土師器	小型器台		1														1
		高坏		1	9		31								1		2	44
		坏			4	1	26			1	10						2	44
		壺			1		1											2
		鉢			1		1											2
		甕		2	282	1	532				93				3		40	953
	土製品	手捏ね		1		3	3											7
	石製品	勾玉				1												1
	鉄製品	刀子					1											1
	焼成粘土塊					2				3								5
中近世	陶磁器	不明					1											1
磨石類				1														1
礫				11		3				3						2		19
総計				22	409	27	848	0	0	11	152	1	9	0	13	2	72	1567

第２表　古山遺跡出土遺物観察表

第１号土坑出土遺物

遺物番号	種類 器種	口径 底径 器高	技法・その他	胎土	色調	焼成
1	土製品 玦状耳飾	1/3残存。長さ〈2.4cm〉、幅1.1cm、厚さ1.0cm。表裏共にナデ。		礫・白色粒微量。	7.5YR6/4	良好

第２号土坑出土遺物

1	石器 石鏃	完形。長さ2.5cm、幅1.6cm、厚さ0.4cm、重量1.5g。チャート製。				

縄文時代遺構外出土遺物

1	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.2〉	口縁部片。内面ヘラケズリ後ミガキ。口唇部は縄文原体圧痕。外面、原体単節LR。一部ナデ消える。諸磯式。SI1出土。	石英微量、白色粒中量。	外面：10YR6/3 内面：10YR6/4	良好
2	縄文土器 深鉢	－ － 〈7.8〉	胴部片。内面ヘラミガキ。外面原体単節RL。一部ナデ消える。焼成後穿孔が確認される。諸磯式。SI2出土。	礫微量、石英・白色粒中量。	外面：7.5YR4/6 内面：5YR4/4	良好
3	縄文土器 深鉢	－ － 〈3.6〉	口縁部片。内面ヘラケズリ。外面縄文原体による圧痕及び横位の沈線を施文した後、斜位の短沈線を施す。浮島式～中期初頭。SI2出土。	礫・金雲母微量、白色粒少量。	外面：10YR5/3 内面：10YR5/3	良好
4	縄文土器 深鉢	－ － 〈2.1〉	口縁部片。内面ナデ。外面上部は2条の沈線が施文され、下部には鋸歯状沈線文が確認される。浮島式～中期初頭。SI1出土。	石英・白色粒微量。	外面：7.5YR6/4 内面：10YR6/4	良好
5	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.8〉	胴部片。内面ナデ。外面刺突文を2段施す。貼付文が施され、貼付文にも刺突が施される。輪積みにより段部が作出される。浮島式～中期初頭。SI2出土。	礫微量、白色粒中量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR4/6	良好
6	縄文土器 深鉢	－ － 〈2.7〉	胴部片。内面ナデ。外面は粘土の貼り付けと彫刻状の手法による鋸歯文の後、縦位の沈線が施される。浮島式～中期初頭。SI2出土。	白色粒微量。	外面：10YR7/3 内面：10YR6/3	良好
7	縄文土器 深鉢	－ － 〈3.3〉	口縁部片。内面ヘラケズリ後一部ナデ。外面波状貝殻文。浮島式～中期初頭。調査区内出土。	礫・石英少量、白色粒中量。	外面：5YR3/6 内面：5YR5/4	良好
8	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.8〉	胴部片。内面ナデ。外面フネガイ科による波状貝殻文。浮島式～中期初頭。SI1出土。	礫・石英微量、白色粒中量。	外面：10YR5/3 内面：7.5YR6/4	良好
9	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.5〉	胴部片。内面ナデ。外面貝殻圧痕文。浮島式～中期初頭。SI2出土。	石英中量、礫・白色粒多量。	外面：7.5YR6/4 内面：5YR5/4	良好
10	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.2〉	胴部片。内面ナデ。外面フネガイ科による波状貝殻文。浮島式～中期初頭。SI2出土。	礫・石英・白色粒少量。	外面：7.5YR5/4 内面：10YR5/2	良好
11	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.2〉	胴部片。内面ナデ。外面幅狭の波状貝殻文を縦施文。浮島式～中期初頭。SI2出土。	石英・白色粒微量。	外面：7.5YR6/4 内面：10YR4/2	良好
12	縄文土器 深鉢	－ － 〈3.3〉	口縁部片。内面ヘラミガキ。外面原体単節RLの圧痕を2段施し、下部は原体の圧痕による鋸歯文を施す。浮島式～中期初頭。SI2出土。	礫微量、石英少量、白色粒中量。	外面：10YR5/3 内面：7.5YR5/4	良好
13	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.5〉	口縁部片。内面ナデ。口唇部に貝殻の圧痕による押捺を施す。外面は原体無節Lを斜位に重畳施文。SI2出土。	礫・石英・白色粒少量。	外面：10YR6/4 内面：10YR6/3	良好
14	縄文土器 深鉢	－ － 〈3.0〉	胴部片。内面ヘラミガキ。外面原体単節RL及び原体による圧痕を施す。浮島式～中期初頭。SI1出土。	白色粒少量。	外面：10YR6/4 内面：10YR6/3	良好
15	縄文土器 深鉢	－ － 〈6.0〉	胴部片。内面ヘラケズリ。外面原体単節RL・LRを施文した後、回転結節文。一部ナデ消える。浮島式～中期初頭。SI2出土。	礫・白色粒多量。	外面：10YR5/3 内面：7.5YR5/4	良好
16	縄文土器 深鉢	－ － 〈3.3〉	胴部片。内面ナデ。外面原体単節RL及び回転結節文の後ミガキ。浮島式～中期初頭。SI1出土。	礫・白色粒微量。	外面：10YR5/3 内面：10YR6/3	良好
17	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.2〉	胴部片。内面ミガキ。外面原体無節R及び回転結節文。浮島式～中期初頭。調査区内出土。	礫・石英少量。	外面：10YR6/2 内面：10YR6/2	良好
18	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.2〉	胴部片。内面ナデ。外面原体単節LR・RL及び回転結節文。浮島式～中期初頭。SI2出土。	石英微量、白色粒中量。	外面：5YR6/6 内面：10YR6/3	良好
19	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.5〉	胴部片。内面ナデ。外面微隆起線を施し、竹管による連続刺突を施す。十三菩提式。SI2出土。	礫中量、金雲母多量。	外面：7.5YR5/4 内面：10YR4/2	良好
20	縄文土器 深鉢	－ － 〈2.7〉	口縁部片。内面ナデ。口唇部刻み。下部に横位の沈線を施し、沈線内に刺突を施す。下部は沈線で曲線文を施文し、曲線文間に印刻を施す。五領ヶ台式。SX1出土。	礫少量。	外面：10YR7/4 内面：10YR6/3	良好
21	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.8〉	口縁部片。内面ナデ。口縁部は外側に肥厚し、下端を沈線により区画。口縁部と頸部に2本1組の沈線を充填する。口縁部内面に沈線を施す。五領ヶ台式。波状口縁。SI2出土。	礫中量、金雲母多量。	外面：7.5YR5/4 内面：10YR4/2	良好

22	縄文土器 深鉢	－ － 〈3.3〉	口縁部片。内面ヘラミガキ。口縁部2本1組の沈線により区画し、縦位の短沈線を充填する。五領ヶ台式。SX1出土。	白色粒少量。	外面：10YR5/3 内面：10YR4/3	良好
23	縄文土器 浅鉢？	－ － 〈3.3〉	口縁部片。内面ヘラケズリ後ヘラミガキ。口唇部に凹線が施される。外面は原体の圧痕による2列の鋸歯文が施され、一部ナデ消える。五領ヶ台式。SI2出土。	礫微量、白色粒多量。	外面：10YR5/3 内面：10YR4/2	良好
24	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.8〉	口縁部片。内面ナデ。外面ヒダ状文及び粘土棒を芯としたつまみ状突起を施す。阿玉台式。SI2出土。	礫少量、金雲母多量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR4/4	良好
25	縄文土器 深鉢	－ － 〈5.4〉	口縁部片。内面ヘラミガキ。外面粘土棒を芯としたつまみ状突起2つが左右非対称に施され、押引文による楕円区画文が施される。下部には縦位の微隆起が確認される。阿玉台Ⅰa～b式。SI2出土。	石英少量、白色粒中量。	外面：10YR6/4 内面：10YR6/3	良好
26	縄文土器 深鉢	－ － 〈5.7〉	口縁部片。内面ヘラミガキ。外面は隆帯で楕円区画された内部に押引文が施される。阿玉台式。波状口縁。SI1出土。	石英少量、礫・白色粒中量。	外面：5YR5/4 内面：5YR5/4	良好
27	縄文土器 深鉢	－ － 〈3.3〉	口縁部片。内面ヘラミガキ。外面は低い隆帯による幅狭の楕円区画に沿い押引文が施される。阿玉台Ⅰa～b式。波状口縁。SI1出土。	白色粒少量。	外面：7.5YR6/4 内面：7.5YR5/4	良好
28	縄文土器 深鉢	－ － 〈3.3〉	口縁部片。内面ヘラミガキ。外面粘土棒を芯としたつまみ状突起と押引文が施される。阿玉台Ⅰa～b式。SI1出土。	白色粒少量。	外面：10YR5/2 内面：10YR6/2	良好
29	縄文土器 深鉢	－ － 〈5.1〉	口縁部片。内面は渦巻文が施される。外面は口縁部下端を区画し、隆帯に沿わせた押引文が施される。阿玉台Ⅰa式。波状口縁。SX1出土。	礫・石英・白色粒中量。	外面：10YR6/4 内面：10YR5/2	良好
30	縄文土器 深鉢	－ － 〈2.4〉	口縁部片。内面は楕円状の区画内に粘土紐による渦巻文が施される。外面は口縁部に沿う押引文が施される。左右非対称の突起。阿玉台Ⅰa式。SI2出土。	礫・石英・白色粒少量。	外面：10YR6/4 内面：10YR6/4	良好
31	縄文土器 深鉢	－ － 〈5.7〉	口縁部片。内外面ナデ。外面は横位の隆帯で口縁部が区画され、内部は無文。阿玉台式。SI2出土。	石英・白色粒多量。	外面：10YR5/3 内面：10YR5/3	良好
32	縄文土器 深鉢	－ － 〈6.3〉	胴部片。内面ヘラミガキ。外面は隆帯で文様を施文し、隆帯に沿わせ押引文が施される。阿玉台Ⅰa式。SI2出土。	石英・白色粒少量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR5/3	良好
33	縄文土器 深鉢	－ － 〈5.1〉	胴部片。内面ナデ。外面は原体無節R及び縦位の隆帯が施される。隆帯上にも疎らに縄文が施文される。阿玉台Ⅳ式。SI1出土。	礫・金雲母中量。	外面：7.5YR5/4 内面：10YR5/3	良好
34	縄文土器 深鉢	－ － 〈2.4〉	胴部片。内面ヘラミガキ。外面は磨消縄文（原体単節LR）。加曽利E式前半。SI1出土。	白色粒少量。	外面：10YR6/3 内面：10YR6/4	良好
35	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.5〉	胴部片。内面ナデ。外面は磨消縄文（原体単節RL）。加曽利EⅡ式。SI2出土。	石英少量、白色粒・金雲母多量。	外面：7.5YR6/3 内面：7.5YR6/4	良好
36	縄文土器 深鉢	－ － 〈9.6〉	口縁部片。内面ヘラミガキ。外面は磨消縄文（原体RL）。沈線意匠文。加曽利B2式。SX1出土。	白色粒中量。	外面：10YR4/2 内面：7.5YR5/4	良好
37	縄文土器 深鉢	－ － 〈6.0〉	口縁部片。内面ヘラミガキ。外面は磨消縄文（原体RL）。2次的な被熱により変色・劣化している。沈線意匠文。加曽利B2式。SX1出土。	白色粒中量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR5/4	良好
38	縄文土器 深鉢	－ － 〈9.6〉	胴部片。内面ヘラミガキ。外面は磨消縄文（原体RL）。外面に煤が付着し、内面は被熱により剥落する。沈線意匠文。加曽利B2式。SX1出土。	白色粒少量。	外面：10YR4/2 内面：7.5YR5/4	良好
39	縄文土器 深鉢	－ － 〈8.1〉	胴部片。内面ヘラミガキ。外面は磨消縄文（原体RL）。沈線意匠文。加曽利B2式。SX1出土。36～39は同一個体と考えられる。	白色粒少量。	外面：10YR4/2 内面：7.5YR5/4	良好
40	縄文土器 深鉢	－ － 〈3.9〉	胴部片。内面ヘラミガキ。外面は沈線による曲線文。加曽利B2式。SX1出土。	礫少量、白色粒中量。	外面：10YR5/2 内面：7.5YR5/4	良好
41	縄文土器 深鉢	－ － 〈4.8〉	胴部片。内面ヘラミガキ。外面は原体単節LRを沈線で横位区画し、対弧文が施される。加曽利B2式。SI2出土。	白色粒中量。	外面：10YR5/2 内面：7.5YR5/4	良好
42	縄文土器 深鉢	－ － 〈7.2〉	口縁部片。内面ヘラケズリ後ヘラミガキ。内面口唇には2条の凹線が確認される。外面は粗雑な縄文及び口縁部上端に紐線文が施される。加曽利B2式。SX1出土。43と同一個体。	白色粒少量。	外面：5YR4/6 内面：5YR4/6	良好
43	縄文土器 深鉢	－ － 〈20.7〉	胴部片。内面ヘラケズリ後ヘラミガキ。外面は粗雑な縄文及び紐線文が施される。加曽利B2式。SX1出土。42と同一個体。	白色粒中量。	外面：5YR4/6 内面：5YR4/6	良好
44	縄文土器 深鉢	－ － 〈5.1〉	口縁部片。内面ヘラミガキ。内面口唇部に凹線が確認される。外面原体単節LR。加曽利B式。SI2出土。	海綿骨針微量、白色粒少量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR5/4	良好
45	石器 石鏃	完形。長さ1.8cm、幅1.2cm、厚さ0.5cm、重量0.8g。黒曜石製。				

46	石器 石鏃	1/3残存。〈1.6cm〉、幅〈1.3cm〉、厚さ0.5cm、重量1.0g。チャート製。
47	石器 石鏃	先端部欠損。長さ〈2.7cm〉、幅2.0cm、厚さ0.4cm、重量1.9g。安山岩製。
48	石器 石鏃未成品	完形。長さ3.5、幅2.6cm、厚さ0.5cm、重量4.5g。チャート製。

第１号竪穴住居跡出土遺物

遺物番号	種類 器種	口径 底径 器高	技法・その他	胎土	色調	焼成
1	土師器 小型器台	(8.4) 10.2 9.5	2/3残存。脚部内面ハケ、端部は軽いヨコナデ、上部ヘラナデ。坏部内外面縦位のヘラミガキ。外面屈曲部は横位のヘラミガキ。脚部外面斜位及び縦位のヘラミガキ、端部は軽いヨコナデ。坏部から脚部は貫通する。	白色粒微量。	外面：7.5YR6/4 内面：7.5YR6/4	良好
2	土師器 高坏	14.4 14.0 11.3	ほぼ完形。脚部内面上半ナデ、中位縦方向のナデ。下半は横方向のナデ、裾部ヨコナデ。坏部内面ヨコナデの後斜位のヘラミガキ。坏部外面ヨコナデの後ヘラミガキ、下端はヘラケズリ。脚部外面縦位のヘラミガキ。裾部はヨコナデの後縦位のヘラミガキ。	赤褐色粒微量、石英・白色粒中量。	外面：7.5YR8/4 内面：10YR5/4	良好
3	土師器 高坏	－ － 〈5.3〉	脚部片。内外面共にナデ。内面部分的に赤彩。外面赤彩。	礫少量、石英・白色粒中量。	外面：5YR4/3 内面：10YR2/1	良好
4	土師器 高坏	－ (12.0) 〈5.1〉	脚部片。内外面共にナデ。内面部分的に赤彩。外面赤彩。	礫微量、石英中量。	外面：5YR4/3 内面：10YR4/1	良好
5	土師器 壺	－ － 〈3.1〉	頸部片。内外面共にナデ。	礫微量、白色粒中量。	外面：10YR4/2 内面：10YR6/3	良好
6	土師器 鉢	(10.0) － 〈4.4〉	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ナデ。	石英・白色粒中量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR5/4	良好
7	土師器 甕	16.8 － 〈17.6〉	3/5残存。内面ナデ、一部ヘラナデ及びヘラミガキ。口縁部内面ハケ、一部ナデ。口縁部外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ、下半はヘラミガキ。	礫・石英微量、白色粒中量。	外面：7.5YR5/3 内面：7.5YR5/3	良好
8	土師器 甕	15.0 6.8 20.0	ほぼ完形。内面下半ハケの後ヘラミガキ、中位～上半はナデ及びミガキ・ヘラミガキ。口縁部内面ヨコナデ、一部ハケ。口縁部外面ヨコナデ。外面はヘラケズリ後ナデ。胴部中位に焼成前穿孔が確認される。	石英少量、白色粒中量。	外面：10YR4/2 内面：10YR4/2	良好
9	土師器 甕	(16.0) － 〈3.5〉	口縁部片。内面ナデ。口縁部内面横方向のハケ。外面斜位のハケ。口縁部外面上半はヨコナデ。	礫微量、石英・白色粒少量。	外面：7.5YR5/4 内面：10YR5/3	良好
10	土師器 甕	－ 6.0 〈4.4〉	底部片。内面ナデ及びヘラミガキ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。	白色粒微量、石英少量。	外面：7.5YR5/3 内面：10YR5/2	良好
11	土製品 手捏ね	－ 2.8 〈2.0〉	2/3残存。内面指頭痕残る。外面及び底部ナデ。	白色粒微量。	外面：7.5YR5/4 内面：10YR4/1	良好

第２号竪穴住居跡出土遺物

遺物番号	種類 器種	口径 底径 器高	技法・その他	胎土	色調	焼成
1	土師器 高坏	(20.0) － 〈3.9〉	口縁部片。内面ナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面共に赤彩。2と同一個体。	礫微量、石英・白色粒中量。	外面：5YR4/3 内面：5YR3/3	良好
2	土師器 高坏	(20.0) － 〈3.9〉	口縁部片。内面ナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面共に赤彩。1と同一個体。	礫微量、石英・白色粒中量。	外面：5YR4/3 内面：5YR3/3	良好
3	土師器 坏	10.6 6.0 4.9	ほぼ完形。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。底部にヘラ記号。内外面共に赤彩。	石英少量、白色粒中量。	外面：2.5YR4/4 内面：2.5YR4/4	良好
4	土師器 坏	(16.0) － 〈3.5〉	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面共に赤彩。	白色粒少量、石英中量。	外面：2.5YR5/6 内面：2.5YR4/6	良好
5	土師器 坏	(16.0) － 〈4.9〉	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面共に赤彩。	石英・白色粒中量。	外面：2.5YR5/6 内面：2.5YR4/6	良好
6	土師器 坏	(15.0) － 〈4.0〉	口縁部片。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面共に赤彩。	石英少量、礫中量、白色粒多量。	外面：5YR4/3 内面：5YR4/3	良好
7	土師器 坏	(15.0) － 〈3.8〉	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面共に赤彩。	礫・石英・白色粒中量。	外面：5YR4/3 内面：5YR4/3	良好

8	土師器 坏	(12.0) － 〈5.7〉	口縁部片。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面共に赤彩。	礫・石英・白色粒少量。	外面：5YR4/3 内面：2.5YR4/4	良好
9	土師器 壺	－ － 〈3.7〉	口縁部片。内面ヘラミガキ。外面ナデ。複合口縁。	赤褐色粒微量、白色粒少量。	外面：7.5YR5/3 内面：7.5YR5/4	良好
10	土師器 鉢	(10.0) － 〈7.4〉	口縁部～体部片。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。	石英・白色粒少量。	外面：5YR4/3 内面：5YR5/4	良好
11	土師器 甕	13.7 6.1 26.4	ほぼ完形。内面ナデ。口縁部内面ヘラケズリ。口縁部外面ヨコナデ。凹線が確認される。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。底部に接合痕が残る。	礫・石英・白色粒多量。	外面：10YR4/2 内面：10YR4/2	良好
12	土師器 甕	(30.0) － 〈4.8〉	口縁部片。内面ヘラケズリ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ。	赤褐色粒微量、石英・白色粒中量。	外面：10YR5/3 内面：10YR5/3	良好
13	土師器 甕	－ 7.2 〈10.0〉	胴部下半2/3残存。内面ヘラケズリ後ナデ。外面ヘラケズリ。底部木葉痕。線刻によるものの可能性もあり。	石英微量、白色粒多量。	外面：10YR4/2 内面：10YR4/2	良好
14	土師器 甕	－ (10.0) 〈6.9〉	底部1/3残存。内面ヘラケズリ後ナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。	石英微量、白色粒中量。	外面：10YR4/2 内面：10YR4/2	良好
15	土師器 甕	－ 5.6 〈2.3〉	底部片。内面ナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。底部ナデ。	石英・白色粒多量。	外面：2.5YR4/4 内面：5YR4/4	良好
16	土師器 甕	－ 5.4 〈2.4〉	底部片。内面ナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。	石英少量、白色粒多量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR5/4	良好
17	土師器 甕	－ (8.0) 〈1.7〉	底部片。内面ナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。	石英微量、白色粒少量。	外面：10YR3/2 内面：5YR5/4	良好
18	土製品 手捏ね	－ 5.0 〈2.7〉	3/5残存。内面ナデ。外面指頭痕残る。底部ナデ。	石英・白色粒少量。	外面：10YR6/4 内面：10YR6/4	良好
19	土製品 手捏ね	－ 4.0 〈2.6〉	3/5残存。内面ヘラケズリ。外面ヘラケズリ及びミガキ。底部ナデ。	石英・白色粒微量。	外面：10YR2/1 内面：10YR2/1	良好
20	土製品 手捏ね	－ (5.0) 〈3.8〉	1/3残存。内面ヘラナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。	石英微量、白色粒中量。	外面：7.5YR4/2 内面：7.5YR4/2	良好
21	土製品 手捏ね	－ 4.0 〈1.2〉	1/4残存。内面ナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。	石英・白色粒微量。	外面：10YR5/3 内面：10YR5/3	良好
22	土製品 手捏ね	－ － 〈1.3〉	3/5残存。内外面指頭痕残る。	石英・白色粒少量。	外面：10YR6/3 内面：10YR5/3	良好
23	焼成粘土塊	－ － 〈4.6〉	両面共にナデ。	白色粒少量。	7.5YR6/4	良好
24	石製品 勾玉	完形。長さ2.9cm、幅2.2cm、厚さ0.4cm、重量3.9g。滑石製模造品。側縁には金属器による加工痕が確認され、表裏面に縦横の擦痕残る。一部剥落している。				
25	鉄製品 刀子？	茎～刃部片。長さ〈5.3cm〉、幅1.0cm、厚さ0.4cm、重量4.5g。住居跡掘方出土。				

第１号性格不明遺構出土遺物

遺物番号	種類 器種	口径 底径 器高	技法・その他	胎土	色調	焼成
1	土師器 坏	(13.0) － 〈4.6〉	口縁部片。内面ヘラケズリ後ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面共に赤彩。	石英・白色粒少量。	外面：2.5YR4/3 内面：2.5YR4/3	良好
2	土師器 坏	(12.0) － 〈2.5〉	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面共にヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。内外面共に赤彩。	石英・白色粒少量。	外面：2.5YR4/3 内面：2.5YR4/3	良好
3	土師器 坏	8.4 － 〈4.6〉	1/3残存。内面ヘラケズリ。口縁部外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ。外面赤彩。焼成後穿孔が2ヶ所確認される。	石英微量、白色粒中量。	外面：2.5YR4/4 内面：5YR5/4	良好
4	土師器 甕	－ (10.0) 〈2.3〉	底部片。内面ヘラケズリ後ナデ。外面ナデ。底部ヘラケズリ後ナデ。底部にハケ状工具と考えられる調整痕残る。	石英・白色粒少量。	外面：5YR5/4 内面：5YR5/1	良好

調査前現況（東から）

第１号竪穴住居跡遺物出土状況（北から）

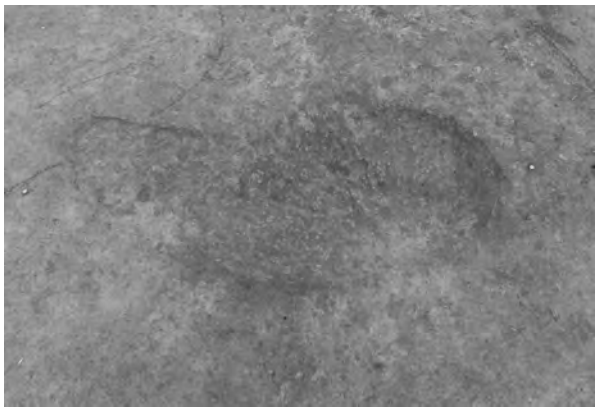
第１号竪穴住居跡遺物出土状況（北東から）

第１号竪穴住居跡全景（北から）

第１号竪穴住居跡掘方全景（北から）

第２号竪穴住居跡土層断面（西から）

第２号竪穴住居跡遺物出土状況（東から）


第２号竪穴住居跡炉跡全景（北東から）

写真図版２

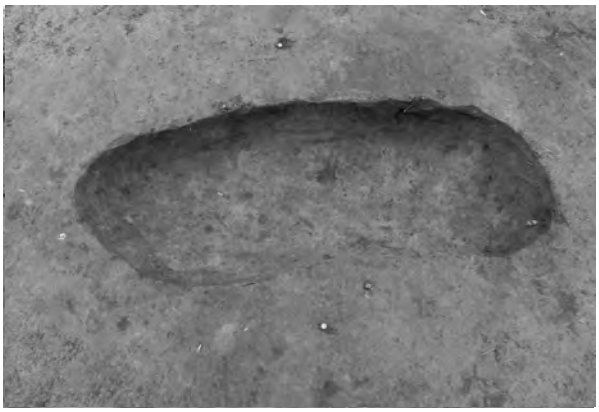
第２号竪穴住居跡全景（西から）

第２号竪穴住居跡掘方全景（西から）

第３号竪穴住居跡全景（東から）

第１号性格不明遺構遺物出土状況（南から）

第１号性格不明遺構土層断面（南から）



第１号土坑全景（西から）

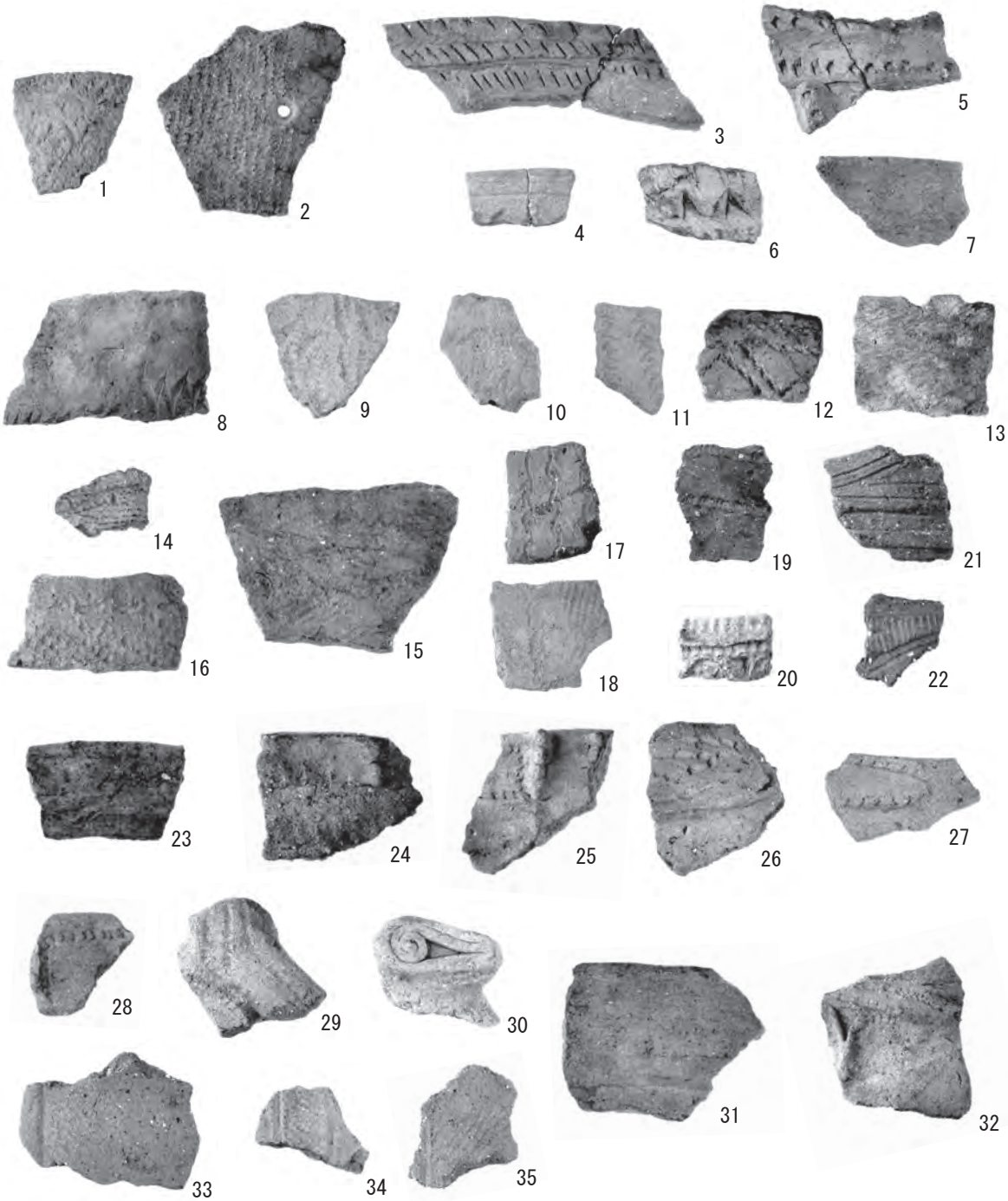
第２号土坑全景（南から）

調査終了状況（東から）

第１・２号土坑出土遺物

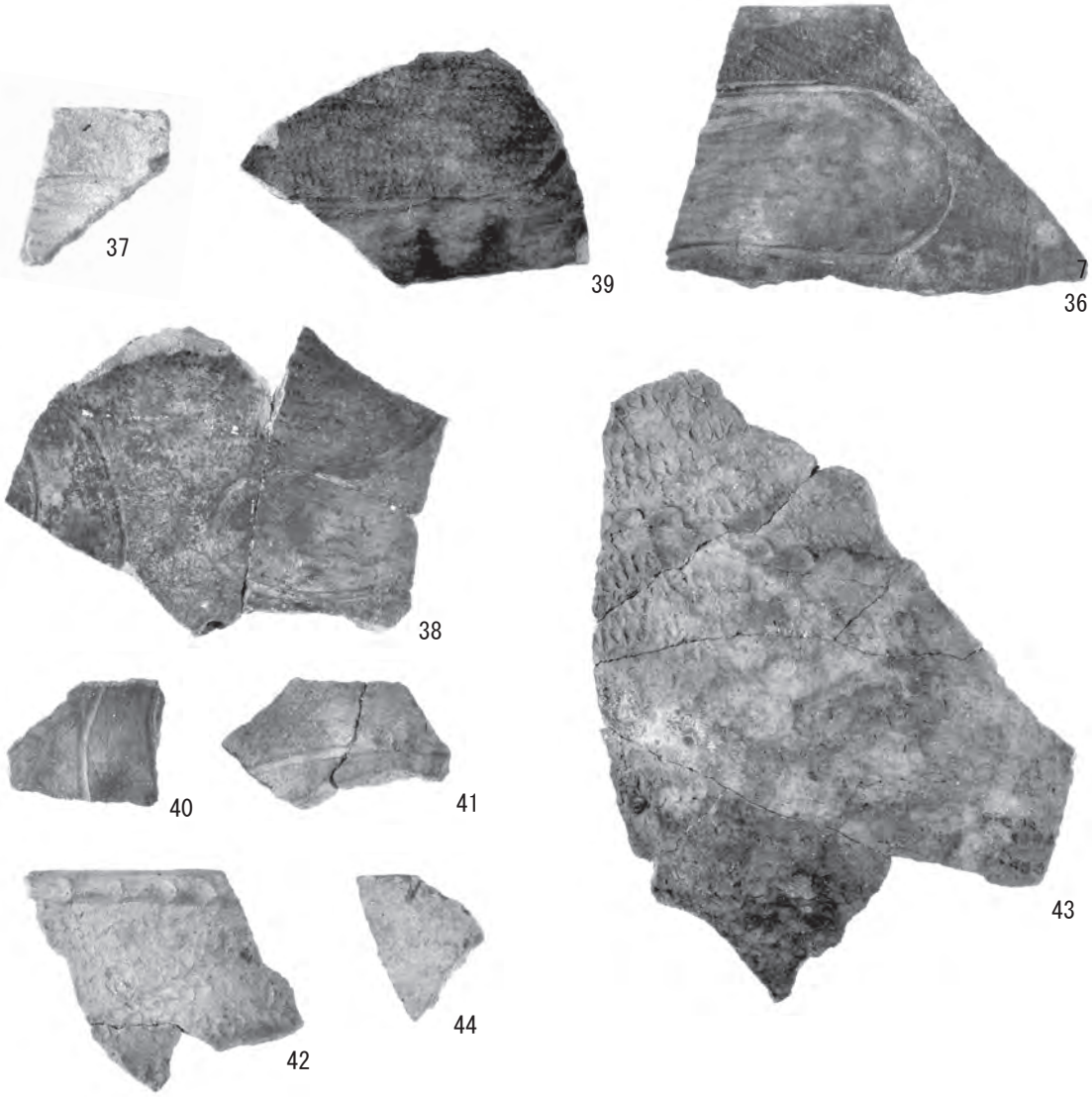
第１号土坑　　第２号土坑

縄文時代遺構外出土遺物（１）

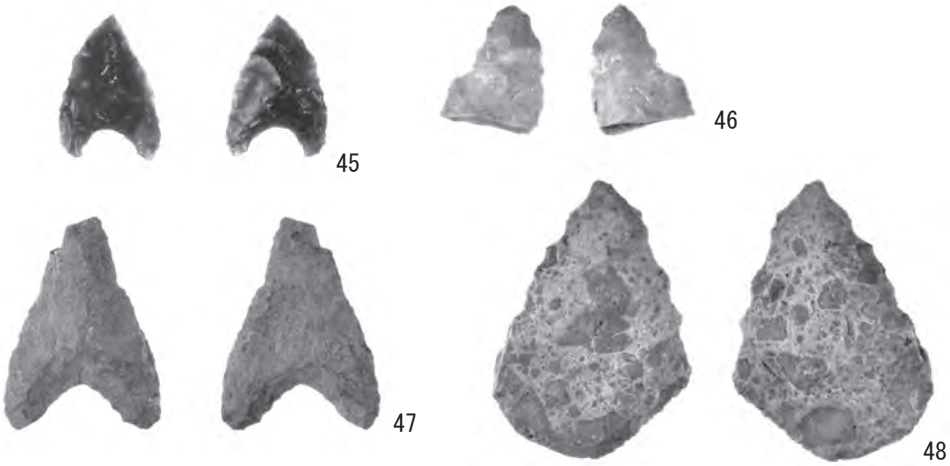


写真図版４

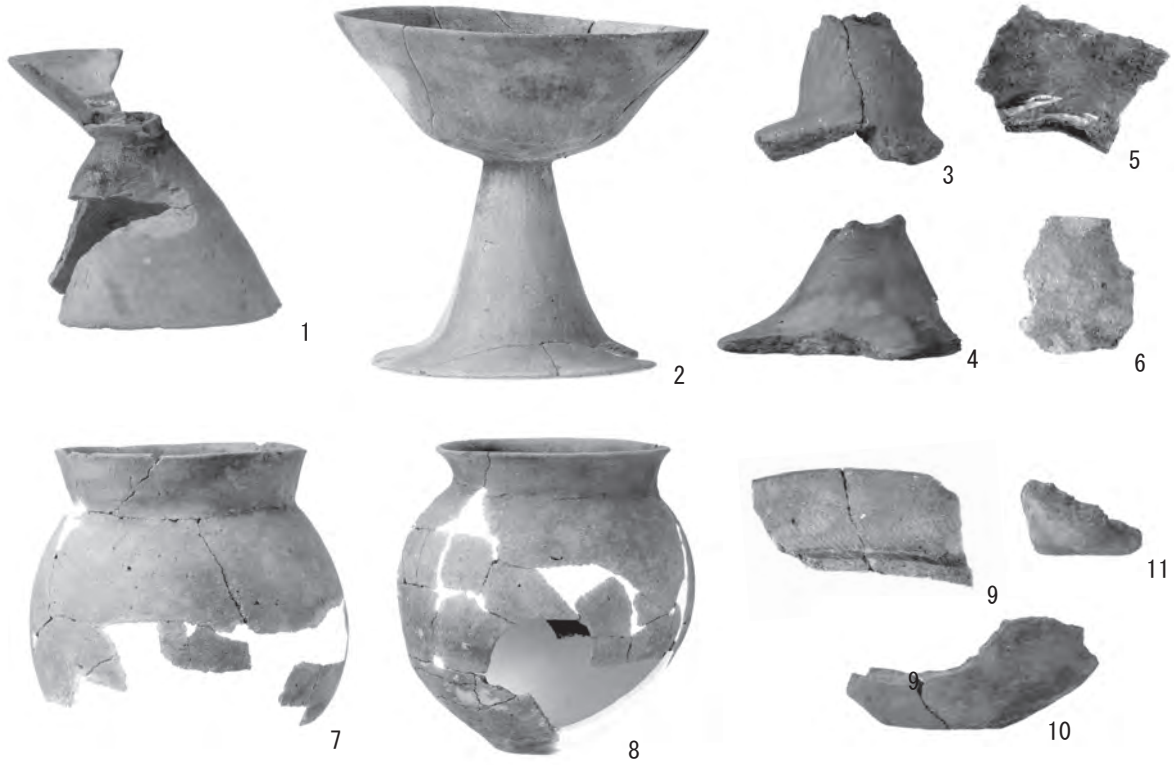
縄文時代遺構外出土遺物（２）



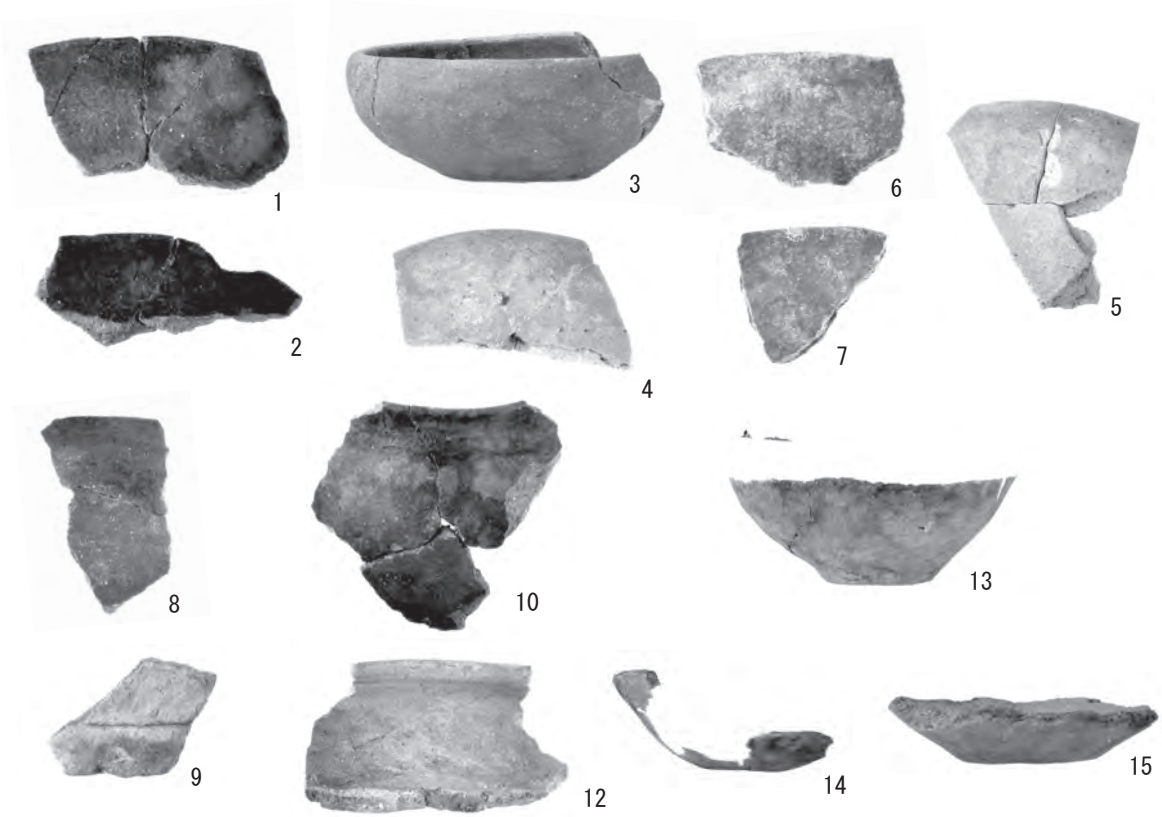
縄文時代遺構外出土石鏃・石鏃未成品



第１号竪穴住居跡出土遺物

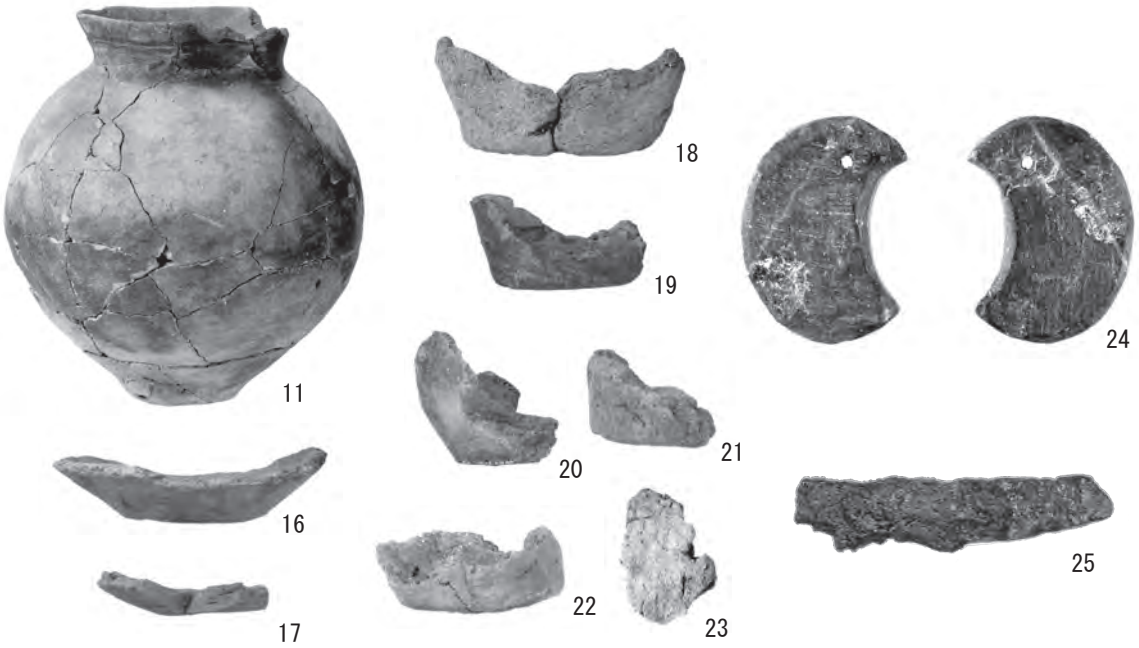


第２号竪穴住居跡出土遺物（１）



写真図版６

第２号竪穴住居跡出土遺物（２）



第１号性格不明遺構出土遺物

第１号竪穴住居跡出土磨石類

報告書抄録

ふりがな	ちばしふるやまいせき
書　　名	千葉市古山遺跡
副 書 名	宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	小林　嵩
編集機関	公益財団法人　千葉市教育振興財団　事務局　埋蔵文化財調査担当
所 在 地	〒260-0814 千葉市中央区南生実町1210　埋蔵文化財調査センター内　TEL：043-266-5433
発行年月日	2018年3月16日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	経緯度	調査 期間	調査 面積	調査 原因
ふるやまいせき 古山遺跡	わかばく　さくらぎ 若葉区　桜木 2-72-3	12104	若葉区 135	北緯 35°　37′　16″ 東経 140°　10′　3″	20170727 ～ 20170817	261.6 ㎡	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
古山遺跡	集落	縄文時代	土　坑　２基	土器・土製品・石器	
	集落	古墳時代前期～中期	竪穴住居跡　３軒	土師器・土製品・石製品・鉄製品	
			性格不明遺構　１基		
	包蔵地	中・近世		陶磁器	

要　　約

１　縄文時代
　土坑が２基検出された。遺構外から早期～後期までの土器・石器が出土し、阿玉台式が最も多い。加曽利貝塚に近接するが、同時期の遺物の出土は少ない。

２　古墳時代
　古墳時代前期末葉の竪穴住居跡１軒、古墳時代中期の竪穴住居跡２軒、性格不明遺構１基が検出された。第１・２次調査と同一の集落と考えられる。

３　中・近世
　遺物が僅かに出土したのみで、土地利用の痕跡は希薄である。

千葉市古山遺跡
－宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書－
平成30年３月16日発行

編集・発行　株式会社　拓匠開発
公益財団法人 千葉市教育振興財団
事務局　埋蔵文化財調査担当
〒260-0814
千葉市中央区南生実町1210
ＴＥＬ：043-266-5433

印　　刷　株式会社　正文社
〒260-0001
千葉市中央区都町1-10-6
ＴＥＬ：043-233-2235